※本講義資料の無断転用・転載、使用を禁じます。

オープンスペースを活かした健康・スポーツ都市をつくる

福岡孝則, RLA(US)
東京農業大学地域環境科学部造園科学科 教授
IAKS Japan

Dec 2, 2024
横浜市議会

IAKS 日本
International Association for Sports and Leisure Facilities

Sports for All

スポーツ・フォア・オールとは

「市民はだれでも各々が希求するような形式でスポーツやプレイを行う権利を有する」

ー1975年：ヨーロッパ18カ国のスポーツ大臣がヨーロッパスポーツ憲章 の冒頭にかかげる。世界でのSports for All 運動の始まりー

・スポーツを通じて生き生きとした、健康で明るいゆとりのある社会の創出

#0 Issues: 日本におけるスポーツ施設の現状

#1 Vision: 健康・スポーツ都市のビジョン

#2 Design: オープンスペースをスポーツの場に

#3 Social: 健康・スポーツのつながりをつくる

背景

・Japan: 人口減少と高齢化社会

Fig.1 日本の人口増減

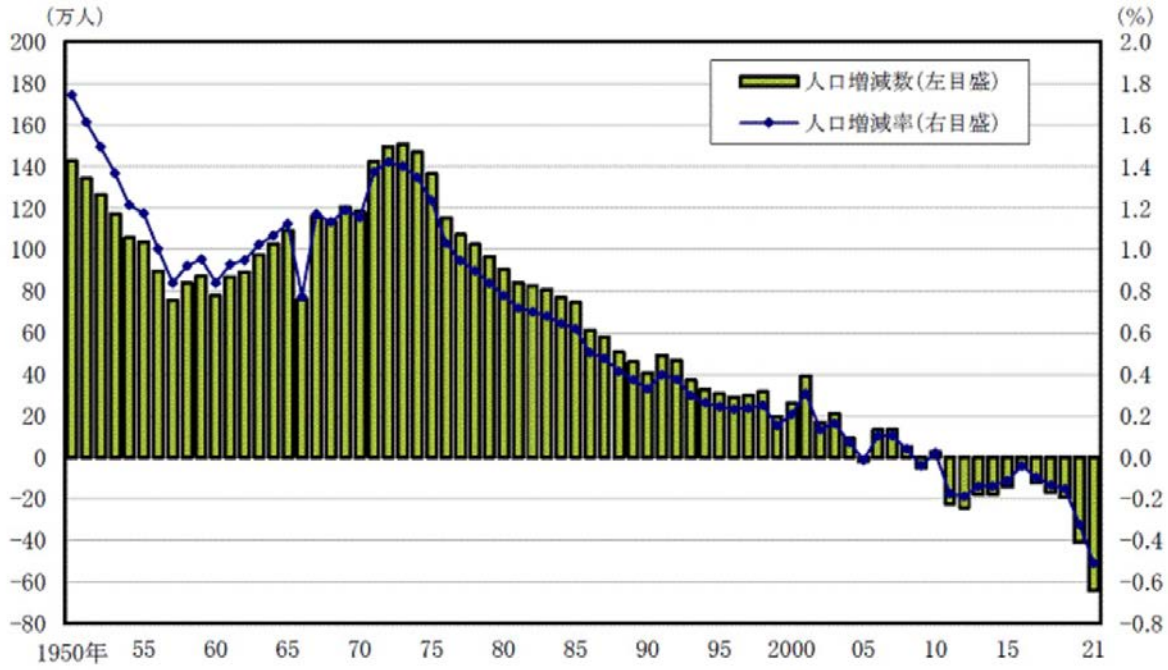
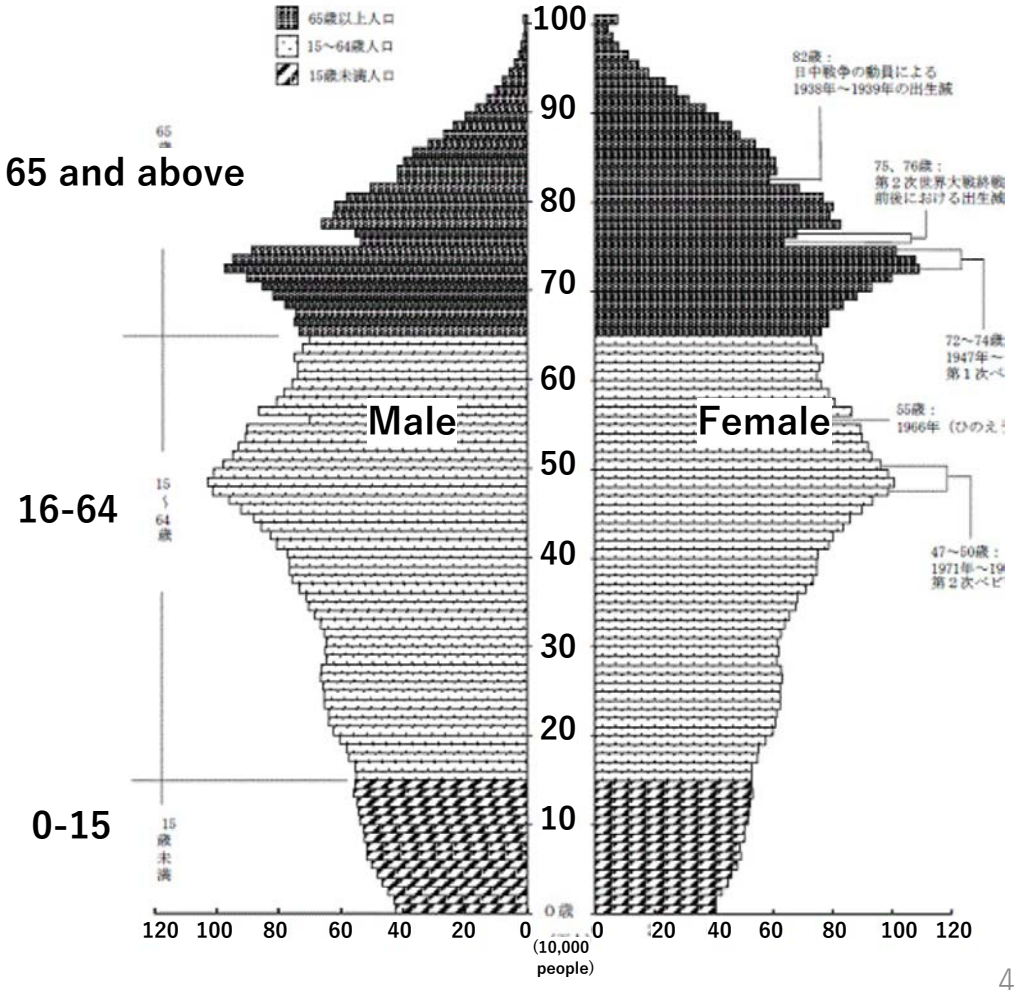


Fig.2 日本の人口ピラミッド

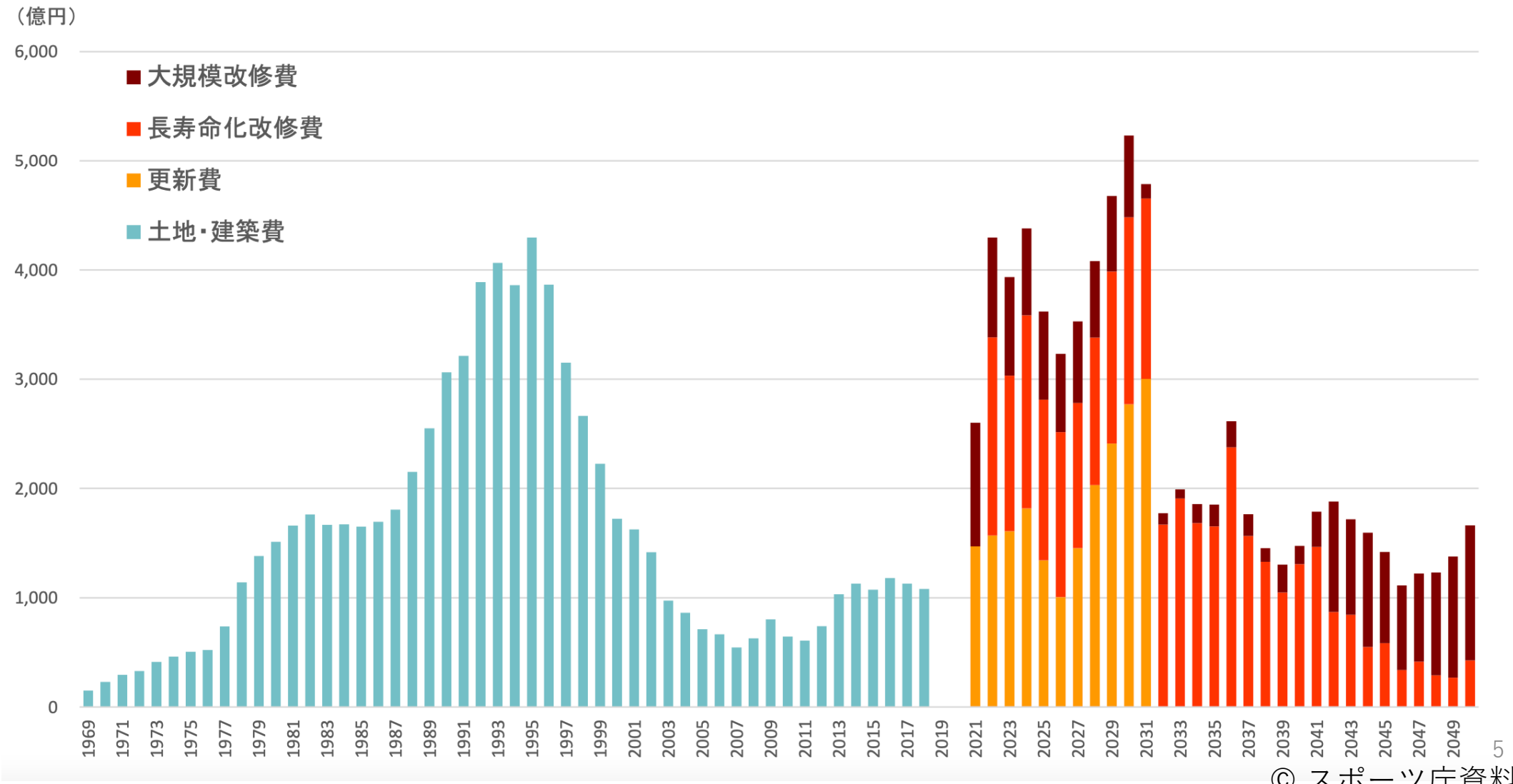


© Statistics Bureau of Japan資料に加筆

スポーツ施設のストックマネジメントと再整備コスト

・187,184：日本国内のスポーツ施設(29,640：プール, 41,682：体育館, 38,173：複合施設)

・Issues: 再整備とマネジメントコスト



© スポーツ庁資料より転載

老朽化が進み課題が山積みのスポーツ施設

・過去16年間に23%のスポーツ施設が消滅　・ハード施設の整備や維持に偏重

©https://mainichi.jp/articles/20210928/ddl/k37/040/438000c

©https://kahoku.news/articles/20220617khn000032.html

©https://izumo-unnan.goguynet.jp/2020/01/20/izumoshi_taikukan/

©https://www.kobe-np.co.jp/news/miki/202103/0014159499.shtml

スポーツ基本計画（スポーツ庁）では

第３期スポーツ基本計画（概要）

[第２期計画期間中の総括]

① **新型コロナウイルス感染症**：
- ➤ 感染拡大により、スポーツ活動が制限

② **東京オリンピック・パラリンピック競技大会**：
- ➤ １年延期後、原則無観客の中で開催

③ **その他社会状況の変化**：
- ➤ 人口減少・高齢化の進行
- ➤ 地域間格差の広がり
- ➤ ＤＸなど急速な技術革新
- ➤ ライフスタイルの変化
- ➤ 持続可能な社会や共生社会への移行

こうした出来事等を通じて、改めて確認された

・「楽しさ」「喜び」「自発性」に基づき行われる本質的な『**スポーツそのものが有する価値**』（Well-being）

・スポーツを通じた地域活性化、健康増進による健康長寿社会の実現、経済発展、国際理解の促進など『**スポーツが社会活性化等に寄与する価値**』

を更に高めるべく、第３期計画では次に掲げる施策を展開

1．東京オリ・パラ大会のスポーツ・レガシーの継承・発展に資する重点施策

持続可能な国際競技力の向上

○ 東京大会の成果を一過性のものとせず、持続可能な国際競技力を向上させるため、
- ・ NFの強化戦略プランの実効化を支援
- ・ アスリート育成パスウェイを構築
- ・ スポーツ医・科学、情報等による支援を充実
- ・ 地域の競技力向上を支える体制を構築

大規模大会の運営ノウハウの継承

○ 新型コロナウイルス感染症の影響下という困難な状況の下で、東京大会を実施したノウハウを、スポーツにおけるホスピタリティの向上に向けた取組も含め今後の大規模な国際競技大会の開催運営に継承・活用

共生社会の実現や多様な主体によるスポーツ参画の促進

○ 東京大会による共生社会への理解・関心の高まりと、スポーツの機運向上を契機としたスポーツ参画を促進

○ オリパラ教育の知見を活かしたアスリートとの交流活動等を推進

地方創生・まちづくり

○ 東京大会による地域住民等のスポーツへの関心の高まりを地方創生・まちづくりの取組に活かし、将来にわたって継続・定着

○ 国立競技場等スポーツ施設における地域のまちづくりと調和した取組を推進

スポーツを通じた国際交流・協力

○ 東京大会に向けて、世界中の人々にスポーツの価値を届けたスポーツ・フォー・トゥモロー（SFT）事業で培われた官民ネットワークを活用し、更なる国際協力を展開、スポーツSDGsにも貢献　（ドーピング防止活動に係る人材・ネットワークの活用等）

スポーツに関わる者の心身の安全・安心確保

○ 東京大会でも課題となったアスリート等の心身の安全・安心を脅かす事態に対応するため、
- ・誹謗中傷や性的ハラスメントの防止
- ・熱中症対策の徹底など安全・安心の確保
- ・暴力根絶に向けた相談窓口の一層の周知・活用

2．スポーツの価値を高めるための第３期計画の新たな「３つの視点」を支える施策

スポーツを「つくる / はぐくむ」

社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれずに柔軟に見直し、最適な手法・ルールを考えて作り出す。

- ◆ 柔軟・適切な手法や仕組みの導入等を通した、多様な主体が参加できるスポーツの機会創出
- ◆ スポーツに取り組む者の自主性・自律性を促す指導ができる質の高いスポーツ指導者の育成
- ◆デジタル技術を活用した新たなスポーツ機会や、新たなビジネスモデルの創出などDXを推進

スポーツで「あつまり、ともに、つながる」

様々な立場・背景・特性を有した人・組織があつまり、ともに課題に対応し、つながりを感じてスポーツを行う。

- ◆ 施設・設備整備、プログラム提供、啓発活動により誰もが一緒にスポーツの価値を享受できる、スポーツを通じた共生社会の実現
- ◆ スポーツ団体のガバナンス・経営力強化、関係団体等の連携・協力による我が国のスポーツ体制の強化
- ◆スポーツ分野の国際協力や魅力の発信

スポーツに「誰もがアクセスできる」

性別や年齢、障害、経済・地域事情等の違い等によって、スポーツの取組に差が生じない社会を実現し、機運を醸成。

- ◆ 住民誰もが気軽にスポーツに親しめる「場づくり」等の機会の提供
- ◆ 居住地域にかかわらず、全国のアスリートがスポーツ医・科学等の支援を受けられるよう地域機関の連携強化
- ◆ 本人が望まない理由でスポーツを途中で諦めることがない継続的なアクセスの確保

#多機能性

#サステナブル

#多様なスポーツ・コミュニティ

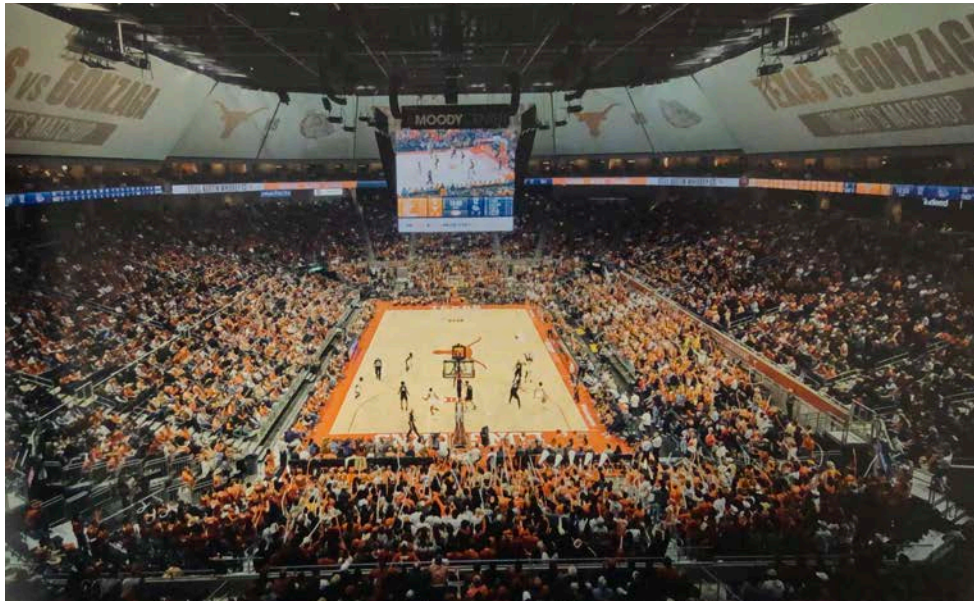
#Tokyo2020のレガシー

Active CityやDesignの動きはない

© スポーツ庁資料より転載

スタジアム・アリーナ v.s. コミュニティスポーツ施設？

- 世界のトレンドは大規模なスポーツ施設（スタジアム・アリーナ）から
  より、多様なコミュニティスケールの健康・スポーツ施設へ
- コンパクト、多機、地域に根差した
  スポーツ施設・場所



v.s.

© 図版すべてIAKS sb magazine

IAKS 日本
International Association for Sports and Leisure Facilities

Questions

#1 どこで健康・スポーツに取り組むのか？
（徒歩圏に自由に体を動かせる場所はある？）

#2 スポーツ施設は社会インフラか？
（スポーツ施設は何のためにあるのか？）

#3 誰と健康・スポーツを行うのか？
（友達？家族？スポーツのつながり？）

#0 Issues: 日本におけるスポーツ施設の現状

#1 Vision: 健康・スポーツ都市のビジョン

#2 Design: オープンスペースをスポーツの場に

#3 Social: 健康・スポーツのつながりをつくる

Livable City（住みやすい都市）という戦略

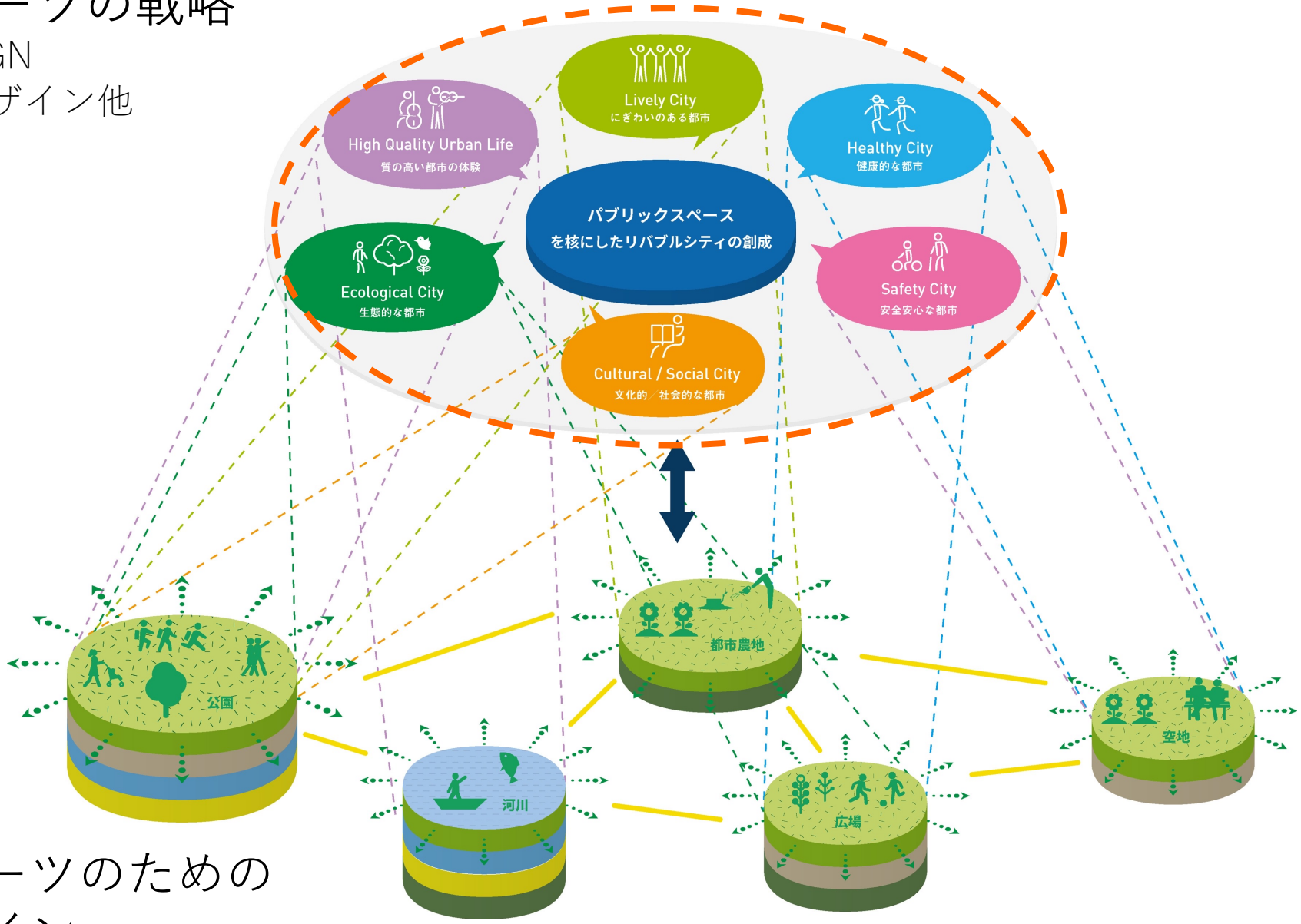
・縮退時代の日本の都市が成熟化し、競争力を高めるためには
既存の地域資源や環境を創造的に活用したと都市・地域の戦略が必要となる。
「健康」「文化・社会」「安全安心」など生活者にとって快適で、住みやすい都市創成のために屋外公共空間は最も有効なアプローチの一つである。

Livable City（住みやすい都市）の指標

©Livable Cityをつくる（マルモ出版）福岡孝則

住みやすい都市と
健康・スポーツの戦略

・ACTIVE DESIGN
　アクティブデザイン他



VISION

PLACE DESIGN
&
MANAGEMENT

健康・スポーツのための
場所のデザイン

・オープンスペース

©福岡孝則

健康都市のビジョン-ACTIVE DESIGN（スポーツイングランド）

作成： スポーツイングランド(2015)
特徴：・政府外公共機関がイングランド公衆衛生サービス(Public Health England)と協働
・アクティブデザインの10原則を提唱
構成：(1)イントロダクション
(2)アクティブデザイン10原則
(3)アクティブデザインの使い方
(4)事例 -導入、経過とその効果-

概要：イングランドでは女性の2人に1人、男性の3人に1人は十分な身体活動を行なっておらず、それらの人々がよりアクティブな日常生活を送ることにより年間74億ポンドの国民健康保険が削減できることを背景としている。積極的な都市・環境デザインから、より活動的で健康的なライフスタイルの形成を目的とし、前半ではアクティブデザインの10原則を説明、後半ではそれらと関連づけて事例を紹介している。

出典：Active Design, Sports England,
https://www.sportengland.org/media/3426/spe003-active-design-published-october-2015-email-2.pdf

健康都市のビジョン-ACTIVE DESIGN（スポーツイングランド）

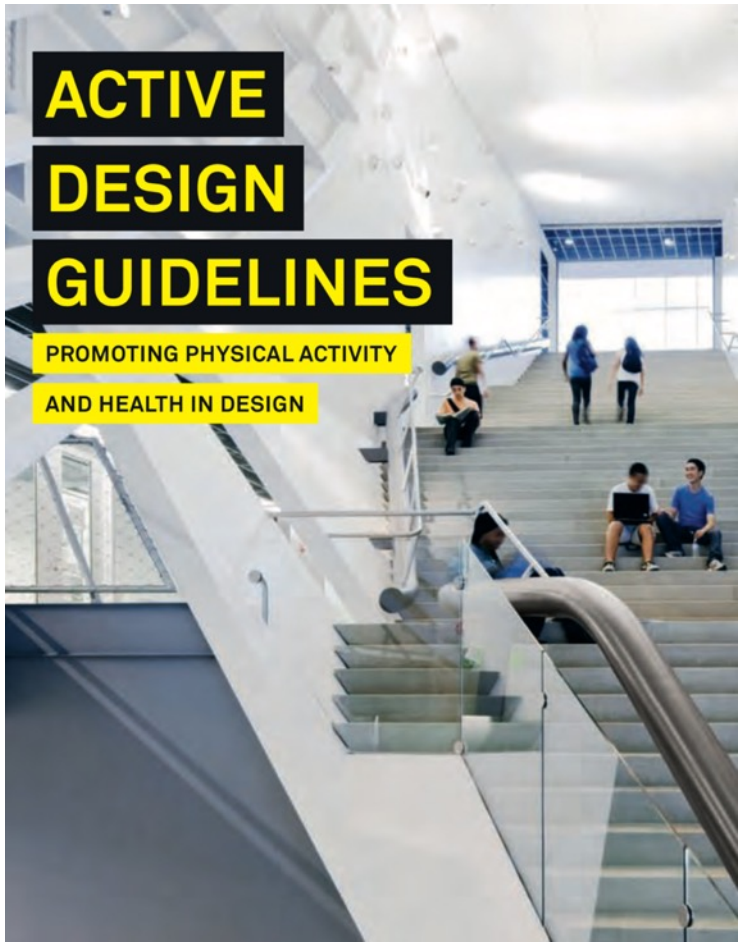
Active Design

アクティブデザインの10原則

1. 全ての人々を対象としたアクセシビリティ向上
2. 徒歩圏内のコミュニティ形成
3. 歩道と自転車道の接続性向上
4. コミュニティー施設の多機能化
5. 多機能なオープンスペースのネットワーク化
6. 質の高い道と空間の整備
7. 適切なインフラストラクチャーの整備
8. 活動を誘発する建築物のデザイン
9. マネジメント・メンテナンス・モニタリング・評価の実施
10. プロモーションと地域のサポーターの形成

出典：Active Design, Sports England,
https://www.sportengland.org/media/3426/spe003-active-design-published-october-2015-email-2.pdf

健康都市のビジョン-ACTIVE DESIGN, New York City



出典：ACTIVE DESIGN GUIDELINES, NY市,
https://centerforactivedesign.org/dl/guidelines.pdf

アクティブ デザイン ガイドライン　ACTIVE DESIGN

作成：ニューヨーク市(2010)

特徴：
・市長を中心に分野横断的な検討体制
(建築・デザイン、健康、交通、都市計画の各局と協働)
・各章にチェックリストを付属することにより課題や
　解決方法を明確化

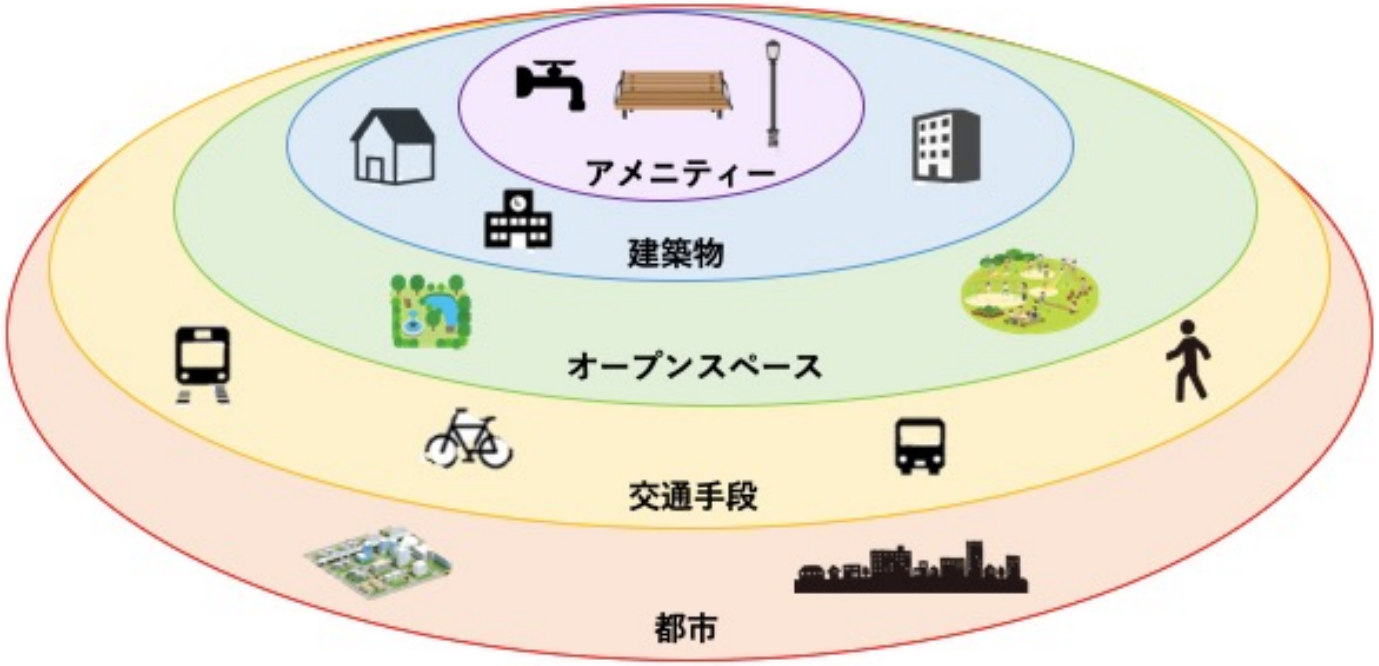
構成：
(1)環境デザインと健康-過去と現在
(2)都市デザイン-活動的な都市を創造する
(3)建築デザイン-日常的な身体活動を誘発する
(4)ユニバーサルかつ持続可能なデザイン-相乗効果

概要：都市デザインは市民の健康増進に大きな影響力がある。現在の運動不足・肥満等の健康課題を都市デザインから積極的にアプローチしていくために空間の理論的分析や明確なビジョンを示している。

参考：ニューヨーク市アクティブデザインガイドラインの展開ガイドラインの実装化に着目して
長村 佳子, 福岡 孝則、都市計画報告集

ACTIVE DESIGN（アクティブデザイン）とは？

アクティブデザインの適用範囲　（マルチスケールの取り組み）
ベンチや照明等のアメニティから学校・オフィスビルなどの建築物、公園や広場などのオープンスペース、歩道や自転車専用レーンなどの交通手段から都市スケールに分類されるが、いずれも連鎖しており相互作用がある。



© 長村佳子・福岡孝則　「ニューヨーク市アクティブデザインガイドラインの展開
都市計画報告集 No.19, 2020年8月　より

健康都市のビジョン-ACTIVE DESIGN （ニューヨーク市）

CHECKLIST URBAN DESIGN

2.1	**LAND USE MIX**
	When planning urban-scale developments, provide for a mix of uses—for example, residences, offices, schools, retail stores, cultural and community spaces, and recreational facilities.
	Locate places of residence and work near destinations such as parks, walking paths, trails, and waterfront recreation areas.
	Develop supermarkets and full-service grocery stores near places of work and residence.
2.2	**TRANSIT AND PARKING**
	Locate buildings and building entrances near public transit stops and along transit corridors.
	Place public transit stops along well-connected streets.
	Provide signage at buildings, transit stops, and major intersections showing a map and the distance, time, route, and calories burned to the nearest or next transit stop.
	Encourage transit use by furnishing transit stops with pedestrian conveniences.
	Make sidewalks wide enough to comfortably accommodate pedestrians, including those with disabilities.
	Provide additional space for passengers to wait by adding bus bulbs.
	Create bus stop shelters that protect users from sun, wind, and rain.
	Furnish bus stop shelters with seating or places to lean.
	When designing sites that include parking, consider how the provision of parking can affect the use of more active modes of travel such as walking, bicycling, and public transit.
	Provide parking for people with disabilities.
2.3	**PARKS, OPEN SPACES, AND RECREATIONAL FACILITIES**
	Design open spaces as part of large-scale developments, or locate buildings near open, public spaces.
	Make bicycle and pedestrian routes to parks and public spaces safe and visible.
	When planning a new development, aggregate open space in one large area rather than dispersing into smaller pieces. Where possible, provide residents with access to open space within a ten-minute walk.
	In the design of parks or open spaces, provide paths, running tracks, playgrounds, sports courts, and drinking fountains.
	Locate new projects near existing public and private recreational facilities and encourage development of new facilities, including indoor activity spaces.
	When designing offices and commercial spaces, provide exercise facilities or walking paths nearby.
	Design parks, open spaces, and recreational facilities to complement the cultural preferences of the local population, and to accommodate a range of age groups.
	Create partnerships with organizations to sponsor and maintain green spaces and gardens.

62 ACTIVE DESIGN GUIDELINES

出典：ACTIVE DESIGN GUIDELINES, NY市,
https://centerforactivedesign.org/dl/guidelines.pdf

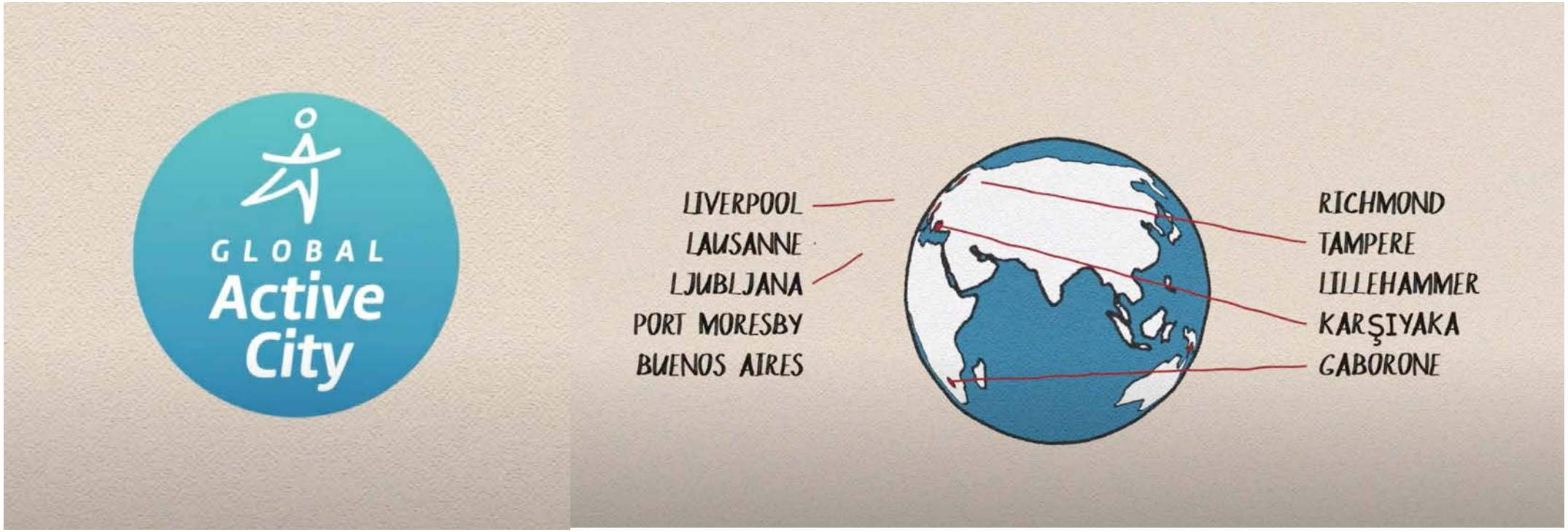
チェックリストの例

＜歩行者道路のデザイン＞
・歩行の頻度と滞留時間を増加させるために
　座る場所、給水ポイント、休憩場所等を設ける
・道路に樹木など視覚的に楽しめるものを設置する

＜自転車移動のインフラ整備＞
・ルートや目的地に十分な自転車置き場の設置
・住民と訪問者にとって自転車へのアクセスを誘発するようなシェアサイクルシステムの追求

＜日常的な階段利用を促進するためのデザイン＞
・階段はビルの入り口付近に設置する
・ビルの内の一番目立つところ、人通りが多い場所に階段を設置する

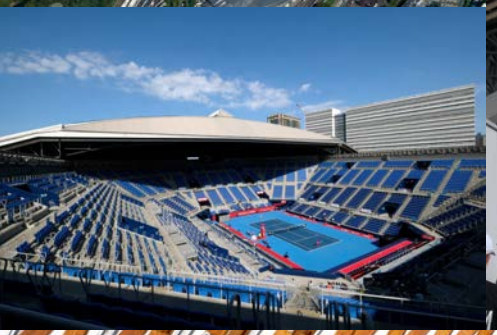
健康都市のモデル-ACTIVE CITY　by TAFISA



© https://www.youtube.com/watch?v=7Z_EWOnLIk8&t=157s　より転載

IAKS Study Trip 2023 日本から世界に発信

IAKS
International Association for Sports and Leisure Facilities



#0 Issues: 日本におけるスポーツ施設の現状

#1 Vision: 健康・スポーツ都市のビジョン

#2 Design: オープンスペースをスポーツの場に

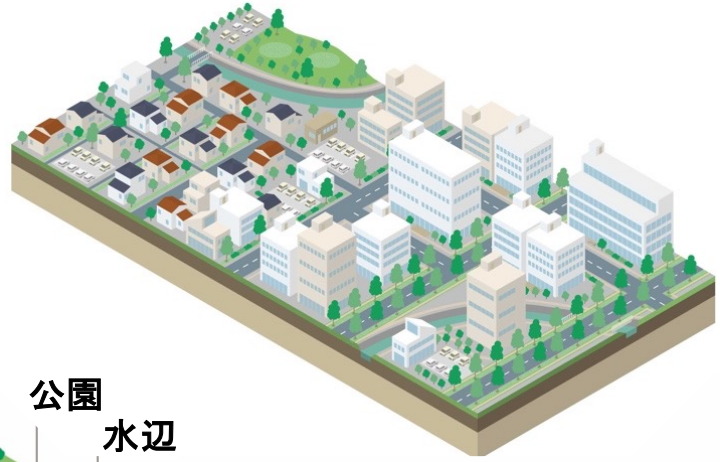
#3 Social: 健康・スポーツのつながりをつくる

オープンスペースから健康・スポーツ都市をつくる?

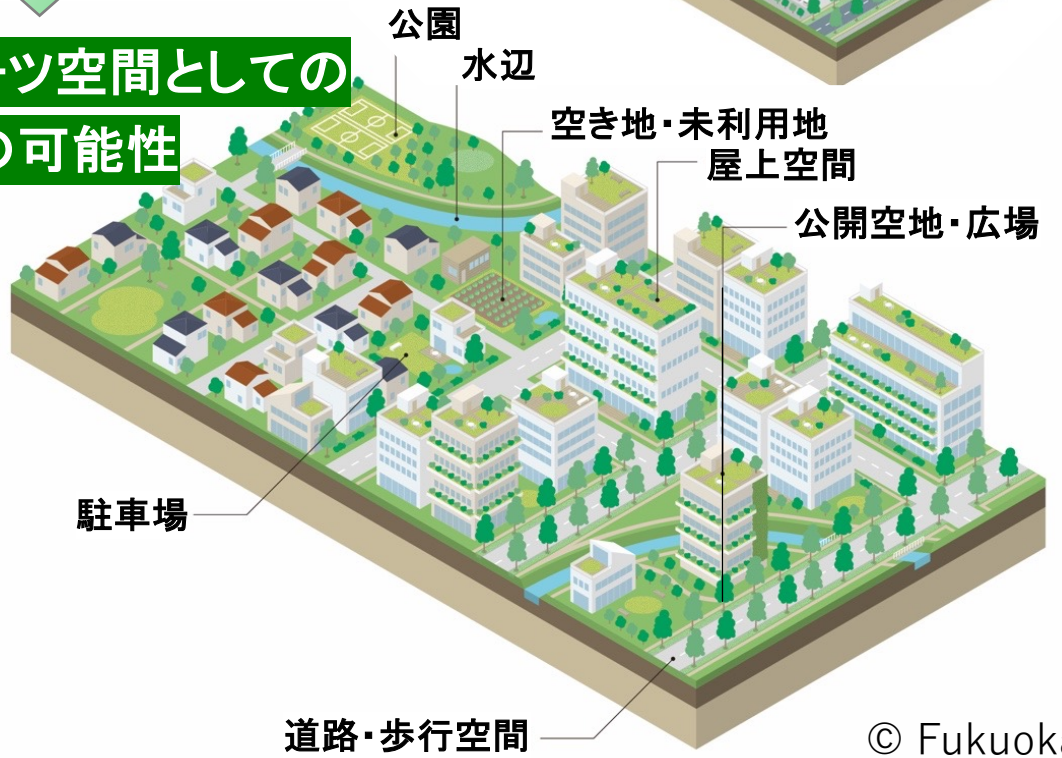
・都市内のあらゆるオープンスペースを健康・スポーツの場に

・オープンスペースを基軸に都市の再生・再編集

現在の都市



スポーツ空間としての都市の可能性



© Fukuoka

© Fukuoka

アクティブデザインの事例：オープンスペースを活かしたスポーツの場づくり

民地の駐車場を健康・スポーツの場に変える

・駐車場と官舎跡地を多機能を持つ場に再整備

・持続的に健康な場所をつくるためのプレイスメイキング

Before

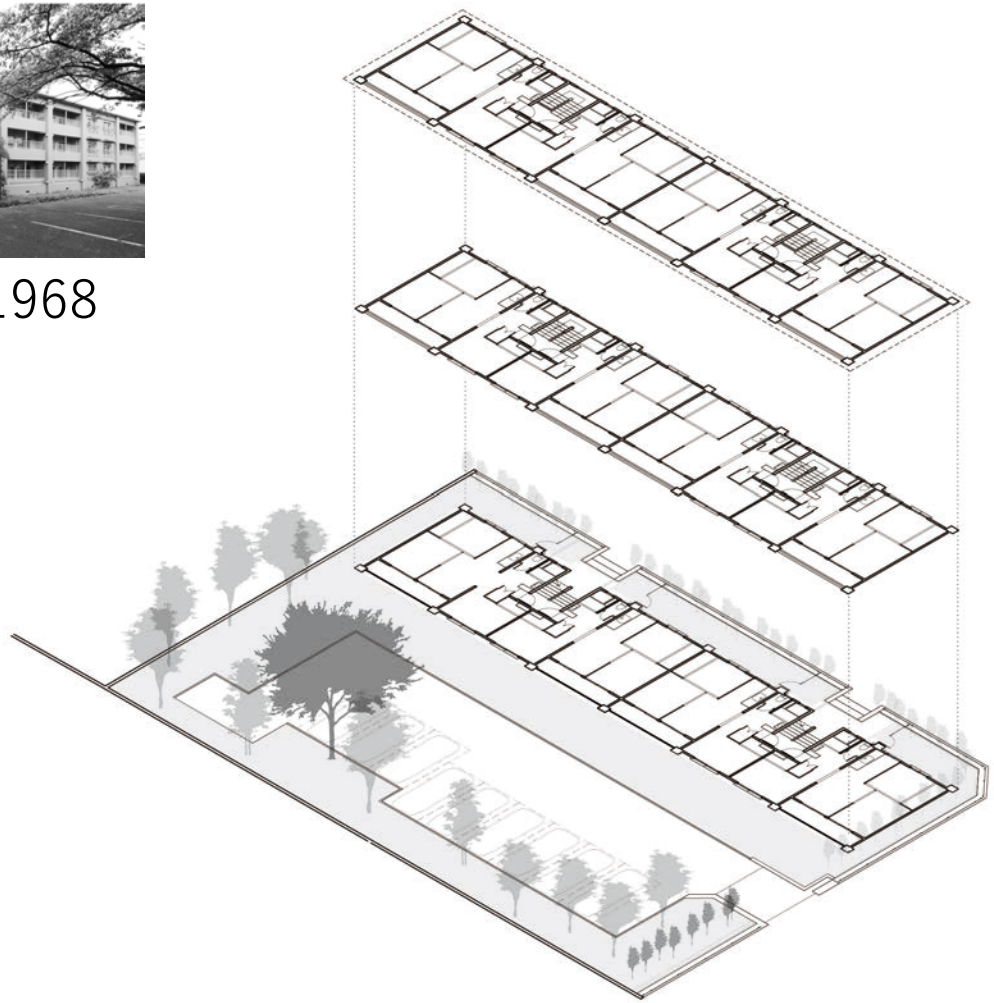
After

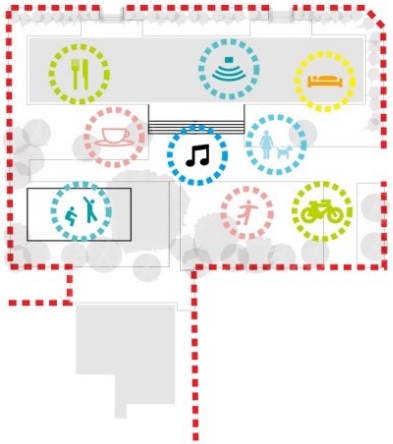
Courtyard HIROO

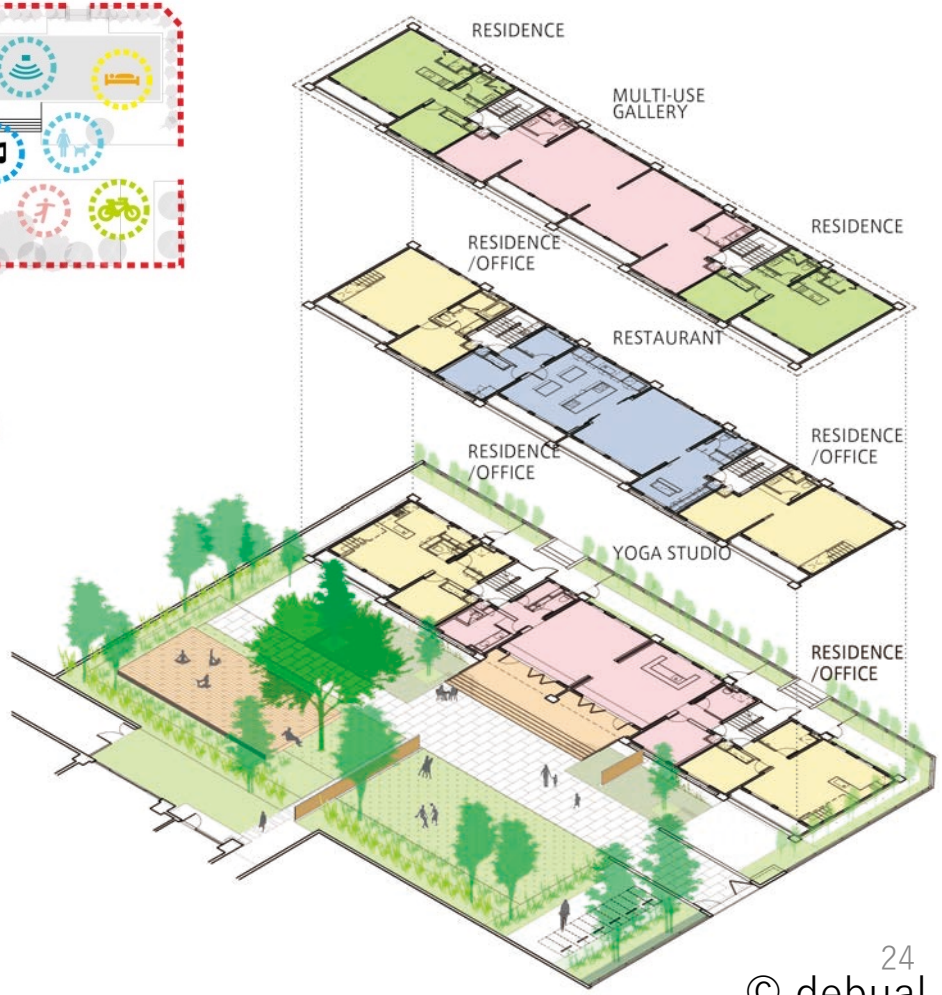
・アウトドアフィットネスとオープンスペースがキーワード

・多様な活動とプログラムを計画設計期間段階から事業者と議論

Built in 1968







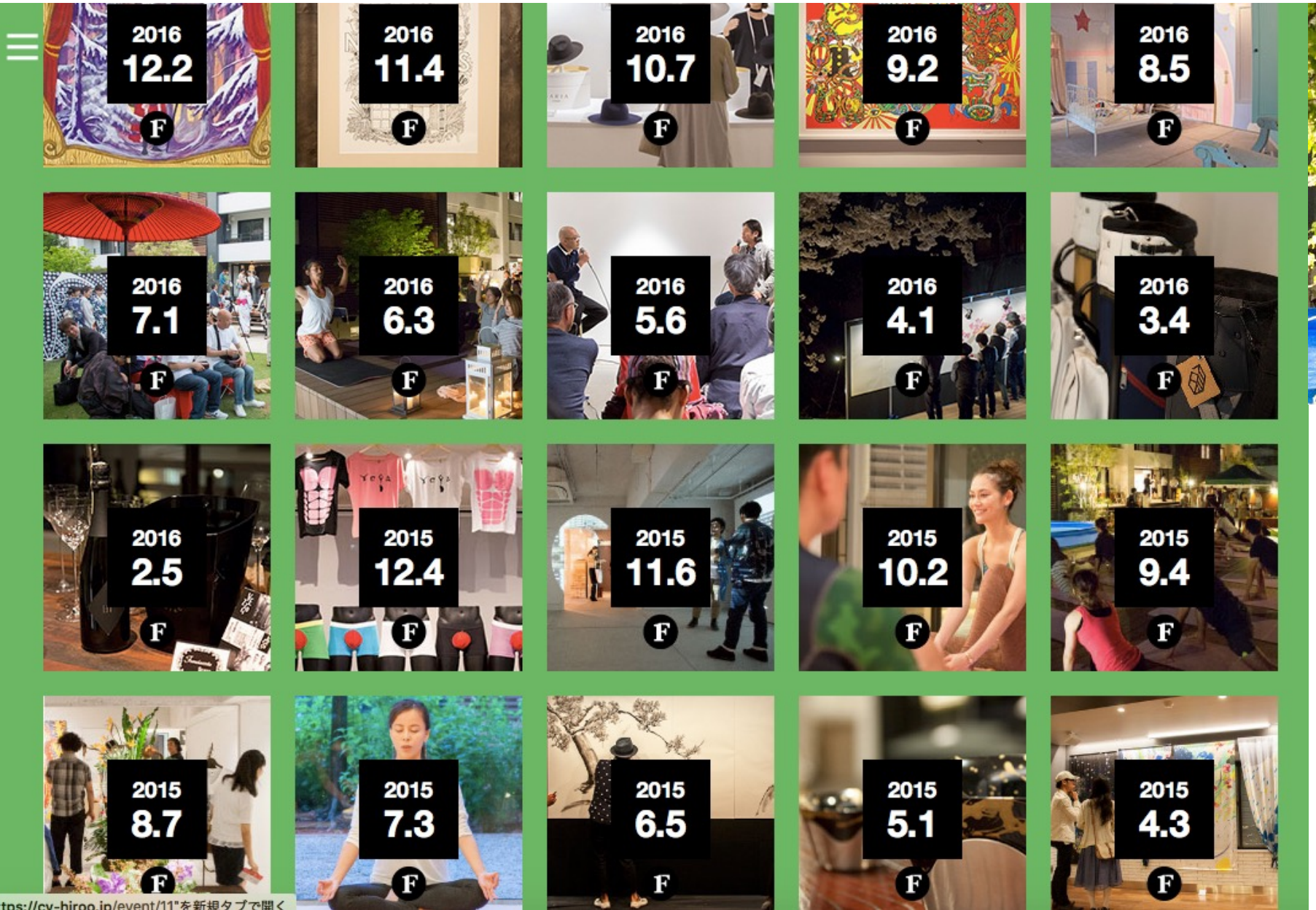
© debual + FdL

体を動かしたくなるような場所をつくる

民地を‘半分ひらき’時には健康・スポーツの場に

場所の編集: 人と場所をつなげるには？

・年間20,000 人の訪問者に合わせた場所のマネジメントとは?



#アート、食, ファッション…
活動を混ぜ合わせる

#民間の事業者が場所の
価値を高める

#First Friday 1/month

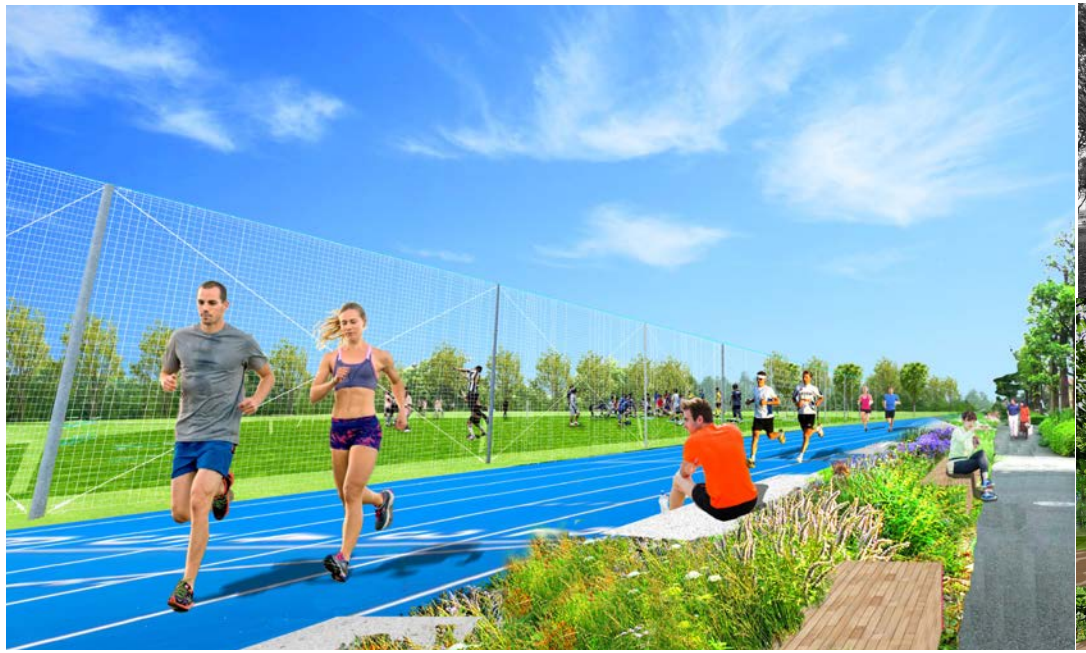
#オープンスペースを
核にした場づくり

© Courtyard HIROO

公民連携で【すべてが公園のようなまち】をつくる

・22ha の敷地：都市公園（運動公園）を核にした都市の再整備

・駅, 商業Commercial Area, Streets, Sports Park, planned with integrated approaches



Grandberry Park
Minami-machida

公民連携で【すべてが公園のようなまち】をつくる

#ウォーカブルシティ

#道路を歩行空間に

#駅から川までの動線

#公園街区

14 のオープンスペース

7 民地

7 公園

Grandberry Park
Minami-machida

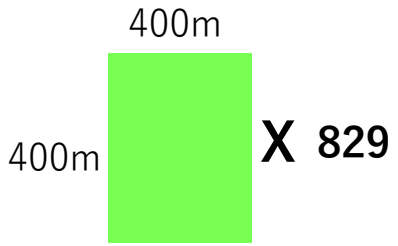
公民連携で【すべてが公園のようなまち】をつくる

日本の運動公園

・運動公園は全国に829箇所（合計面積: 12,874ha, 平均面積：15.5ha）

・施設の老朽化、付帯設備の不足、施設・公園マネジメントの形骸化

・競技スポーツ施設主体の公園が多く、【すべての人が健康・スポーツを楽しめる場】になっていない



公園再整備前の鶴間公園　（横浜市水道道路上）

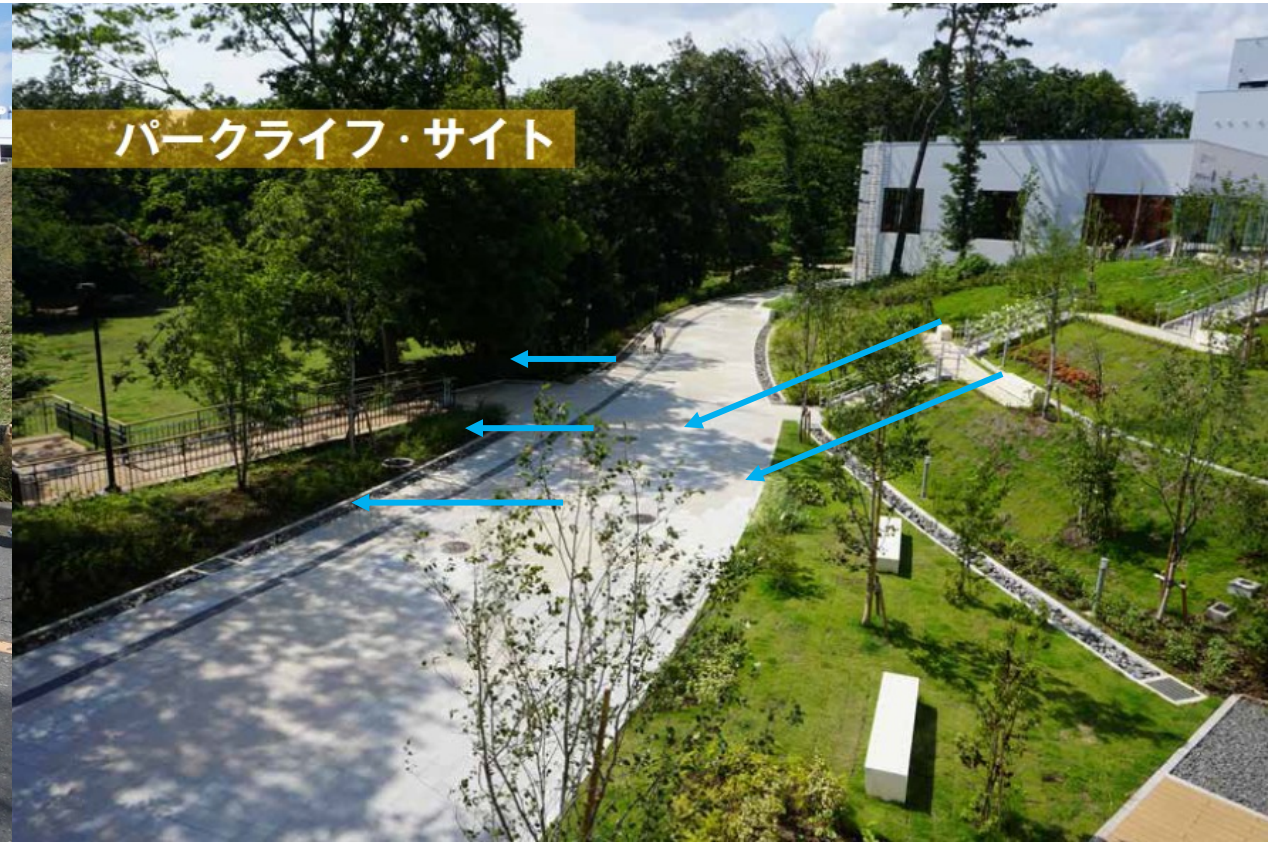
健康・スポーツのためのまちづくりをテスト

© 町田市、東急電鉄

再整備後の運動公園（町田市鶴間公園）

商業施設と公園は道路で分断→道路の再配置、公園を活かした一体的な街区へ

・ウォーカブル都市の推進 （健康 x グリーン）
・官民連携によるエリアの再整備・再編集 （公共空間再編）



Before
・町田市の市道

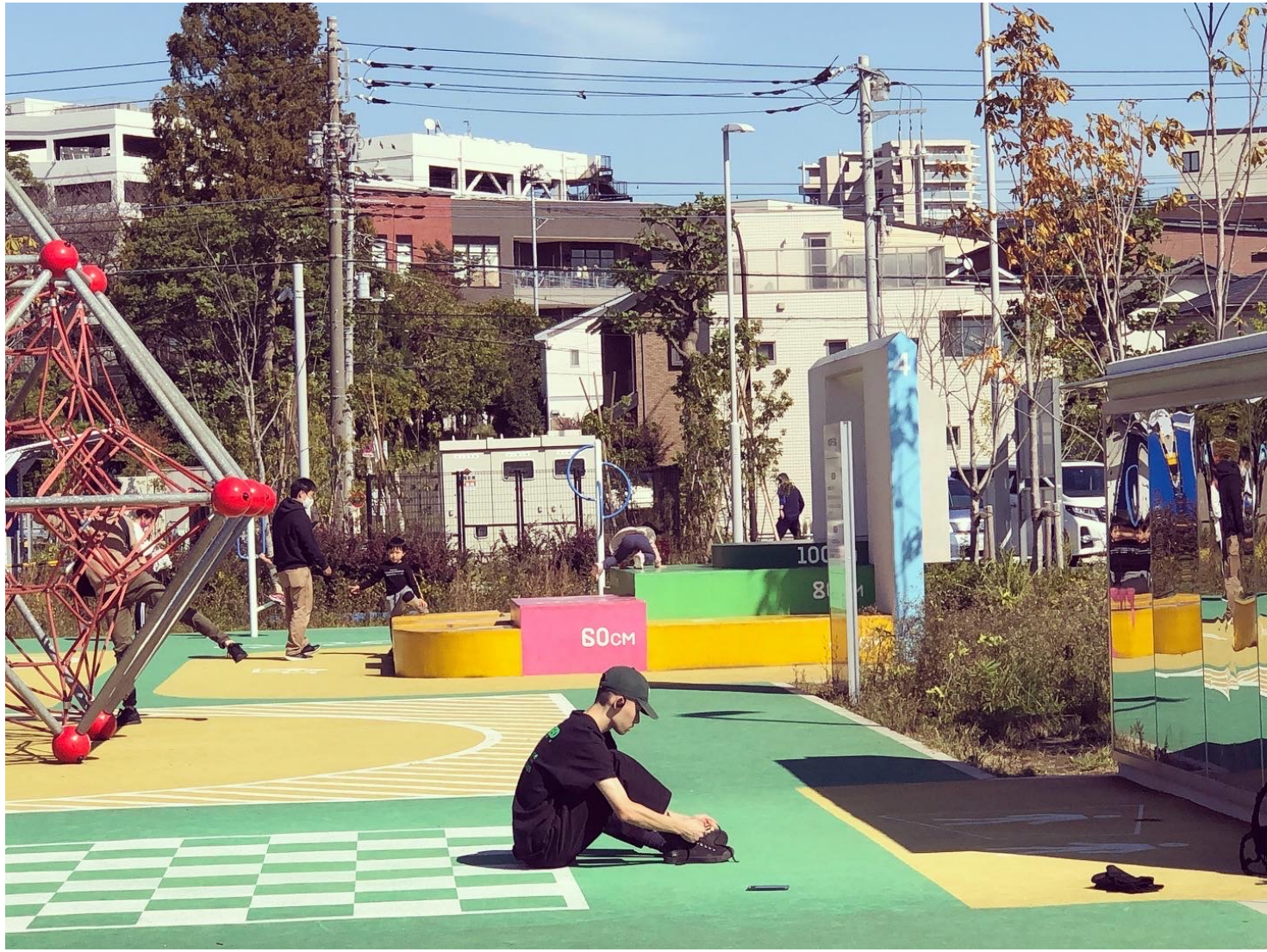
After
・宅地（民設民営によるスヌーピー美術館・
・まちライブラリー、こどもクラブ、6m幅の歩行者専用通路

© 町田市・東急

健康・スポーツののPlace Making
～だれもが体を動かしたくなる場所づくり～

© 長村佳子

健康・スポーツののPlace Making
～だれもが体を動かしたくなる場所づくり～



健康・スポーツののPlace Making
～だれもが体を動かしたくなる場所づくり～

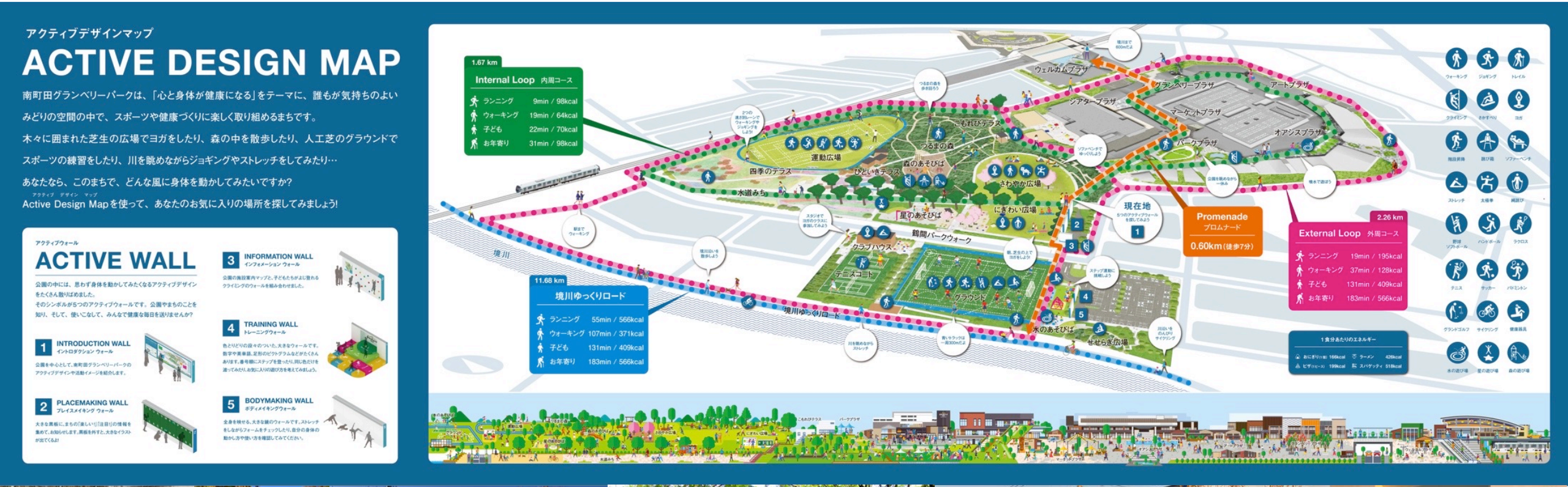
健康・スポーツののPlace Making
～だれもが体を動かしたくなる場所づくり～

健康・スポーツののPlace Making
～だれもが体を動かしたくなる場所づくり～

アクティブデザインをコンセプトにした運動公園

・Active Designの実装, 利用者が自然に動き, 歩き, 体を動かして遊べる場所へ

・Active Designを意識した公園マネジメント：公園 x スポーツのマネジメント



Active Designをコンセプトにした運動公園とは？

・#日常的に多様な活動を許容する場のデザイン　#機能をかけあわせる

・#シームレスな動線計画 # 地域とつなげる

アスリート x スポーツを楽しむ市民

遊び場 x 居心地良く滞在する場所

テニス x カフェ・レストラン

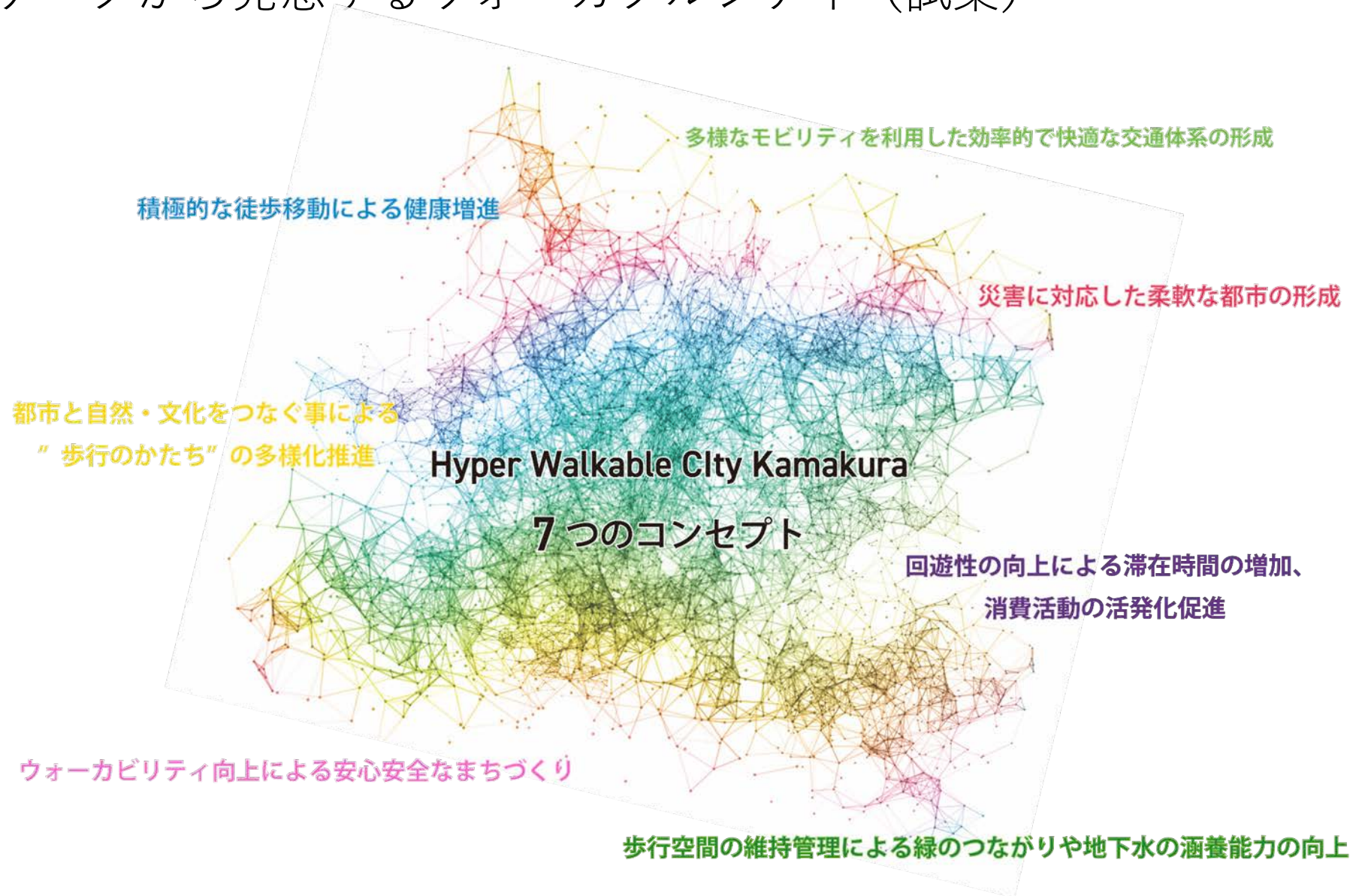
スポーツを眺める場所

スポーツ施設 x ランニング x 遊び場

公園 x 川

ハイパー・ウォーカブルシティ鎌倉

・ランドスケープから発想するウォーカブルシティ（試案）



© 東京農業大学大学院地域環境科学科造園学専攻　造園デザイン詳論成果品より

ハイパー・ウォーカブルシティ　鎌倉

Kamakura , Japan

New-York , US

Hong-Kong , China

Paris , France

Bogota , Colombia

London , UK

Melbourne , Australia

Tokyo , Japan

Copenhagen , Denmark

Singapore , Singapore

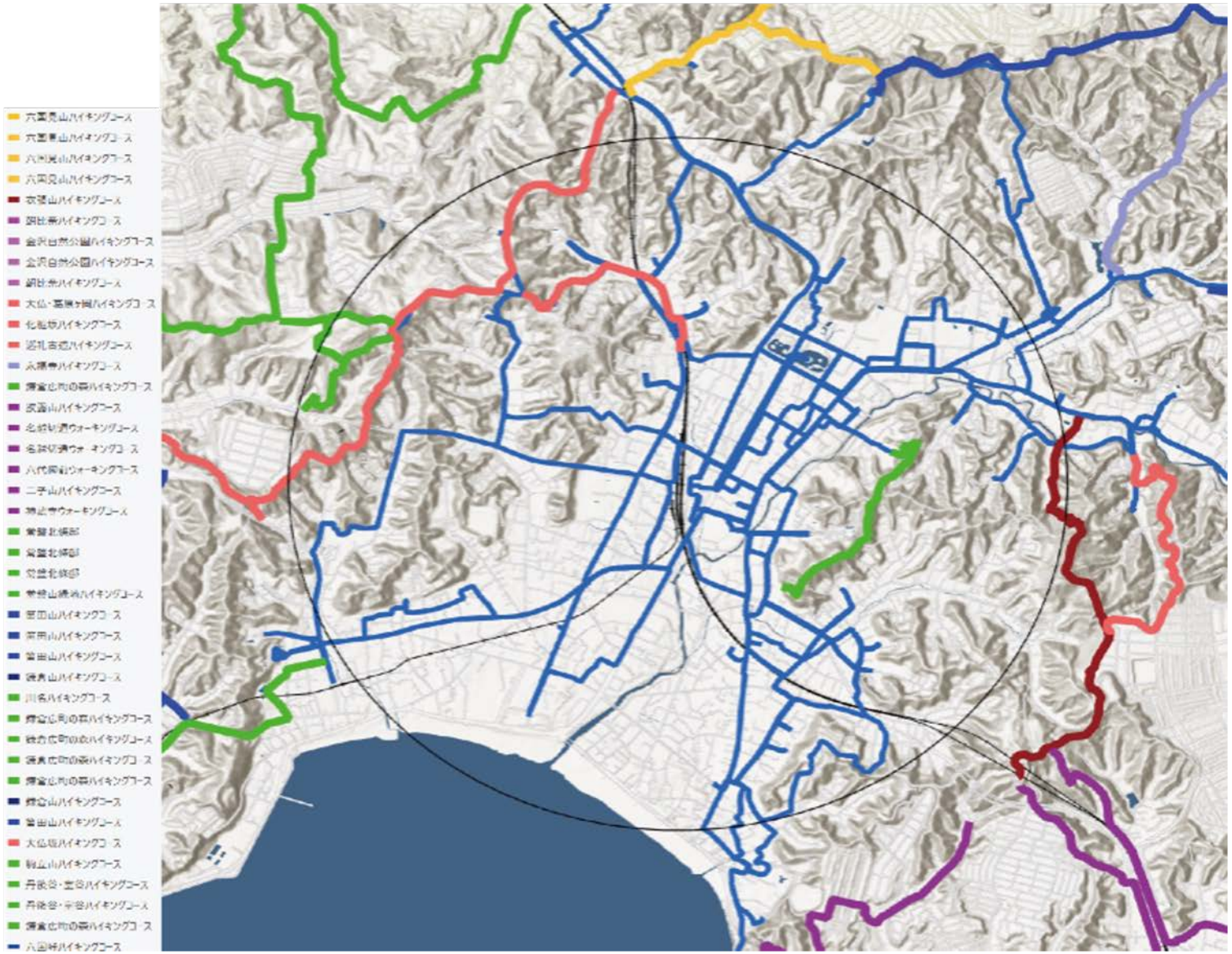
© 東京農業大学大学院地域環境科学科造園学専攻　造園デザイン詳論成果品より

ハイパー・ウォーカブルシティ　鎌倉

© 東京農業大学大学院地域環境科学科造園学専攻　造園デザイン詳論成果品より

ハイパー・ウォーカブルシティ　鎌倉

観光ルート (30 ルート) とハイキングコース



© 東京農業大学大学院地域環境科学科造園学専攻　造園デザイン詳論成果品より

ハイパー・ウォーカブルシティ　鎌倉

＜鎌倉はもともとウォーカブル？＞

Do you live in “15 minute City?

コンビニ
10

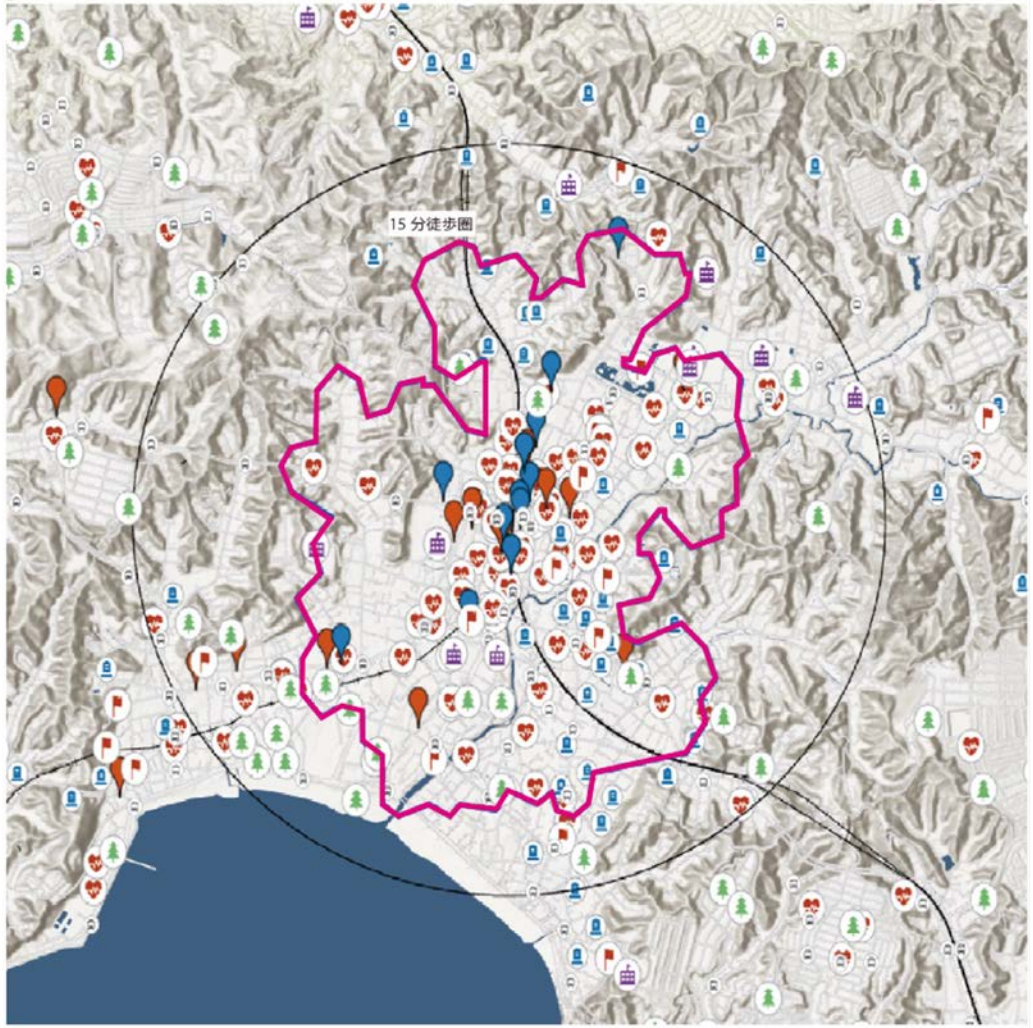
スーパー
11

学校
6

寺社仏閣
21

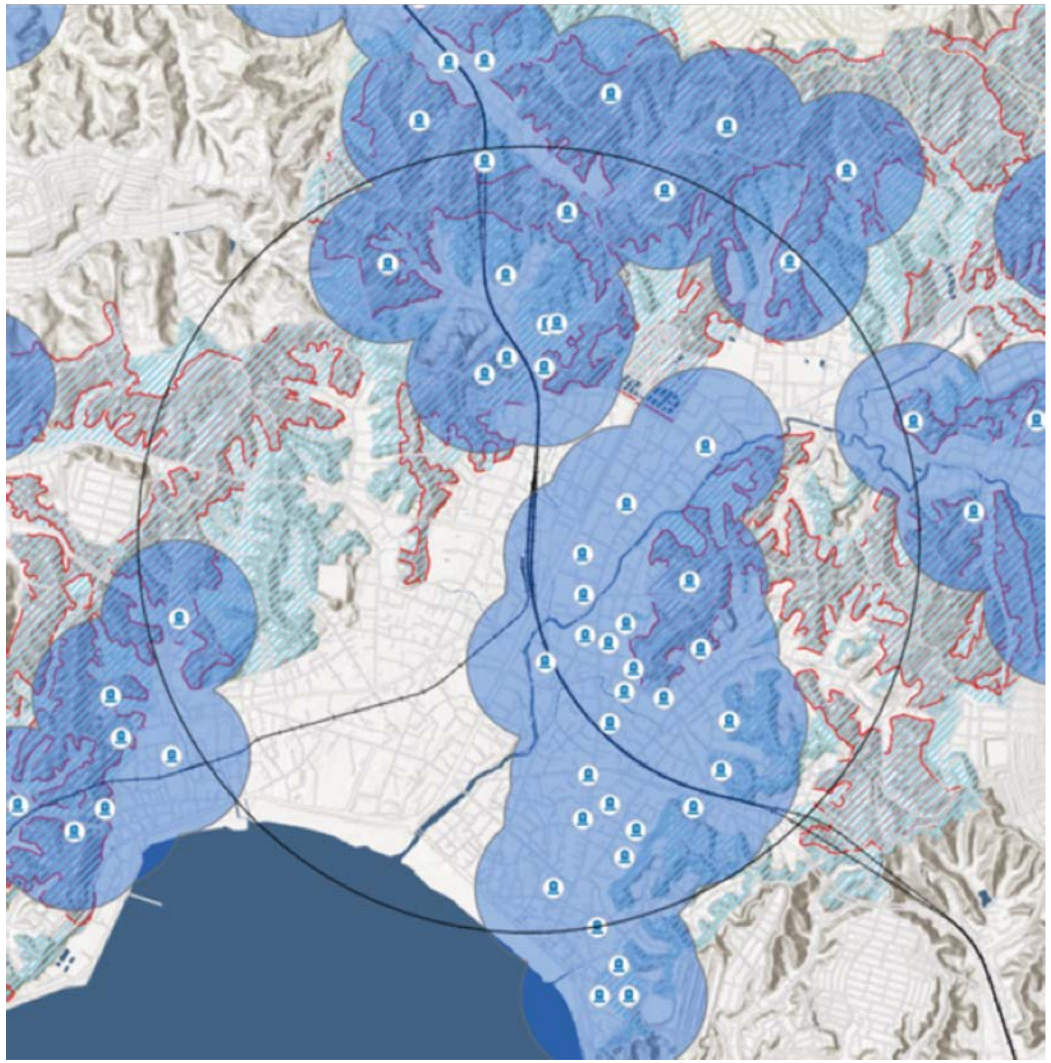
医療機関
41

都市公園
8



鎌倉駅から 15 分の徒歩圏の算出と圏内のアメニティの分布

歴史的風土保全区域と社寺仏閣



© 東京農業大学大学院地域環境科学科造園学専攻　造園デザイン詳論成果品より

自然・文化とつながるみち
ハイパーウォーカブルシティ

自然・文化とつながるみち
ハイパーウォーカブルシティ

ハイパー・ウォーカブルシティ　鎌倉

1. 積極的な徒歩移動による健康増進効果

2. 多様なモビリティを利用した効率的で快適な交通体系の形成

3. ウォーカビリティ*向上による安心安全なまちづくり

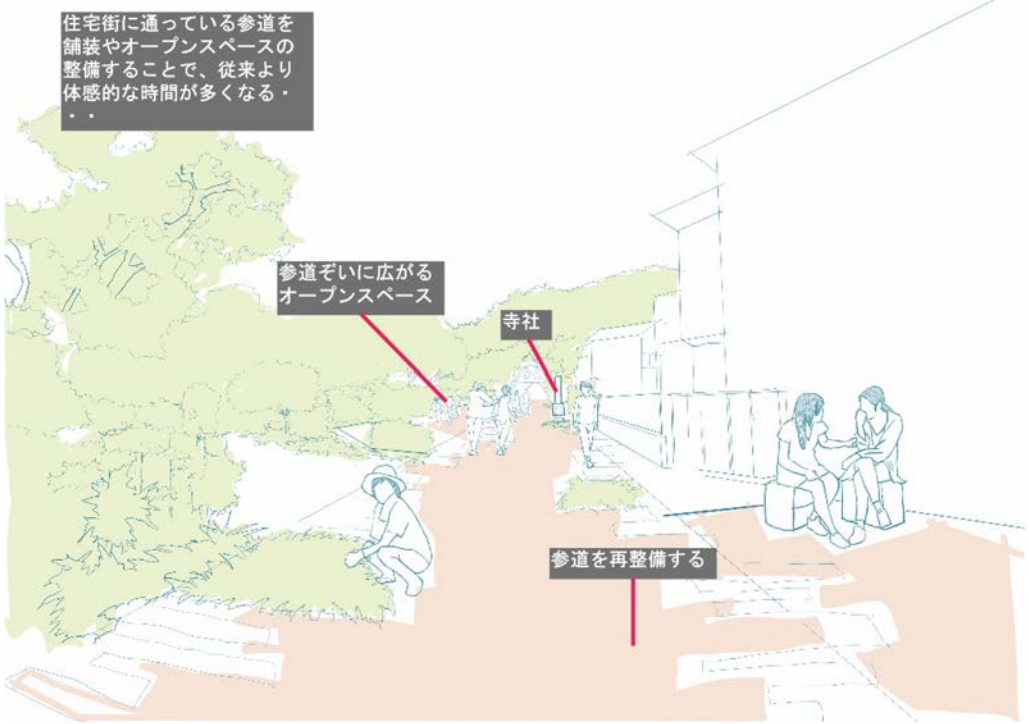
4. 災害に対応した柔軟な都市の形成

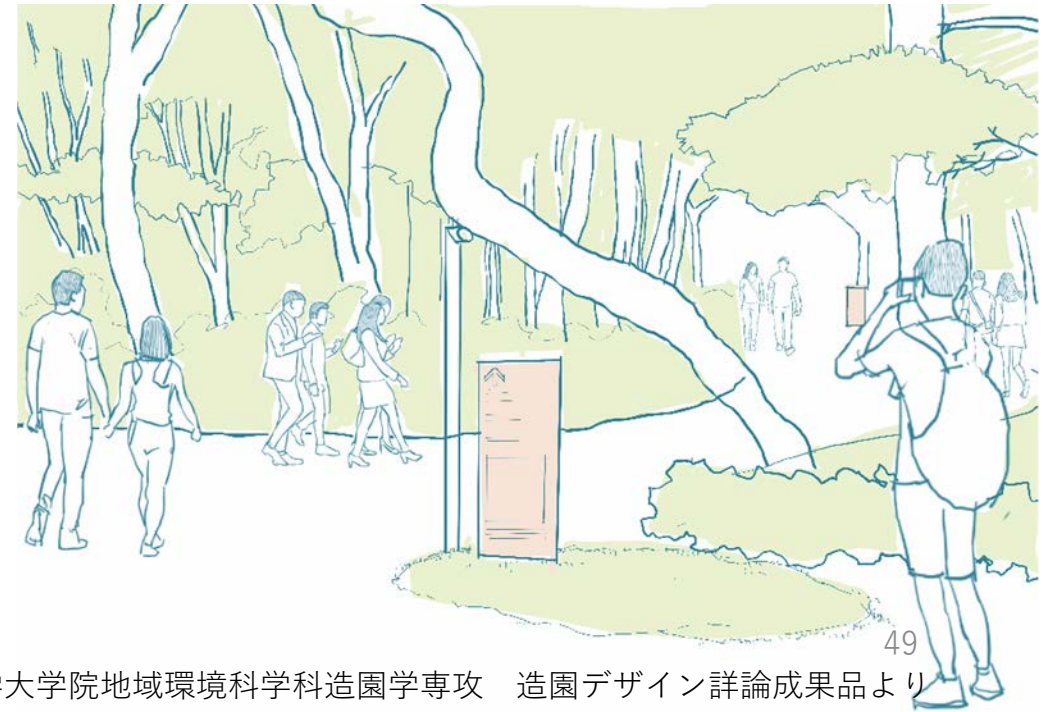
5. 都市と自然・文化をつなぐ事による”歩行のかたち”の多様化

6. 歩行空間の維持管理による緑のつながりや地下水の涵養能力の向上

7. 回遊性の向上による滞在時間の増加、消費活動の活発化促進

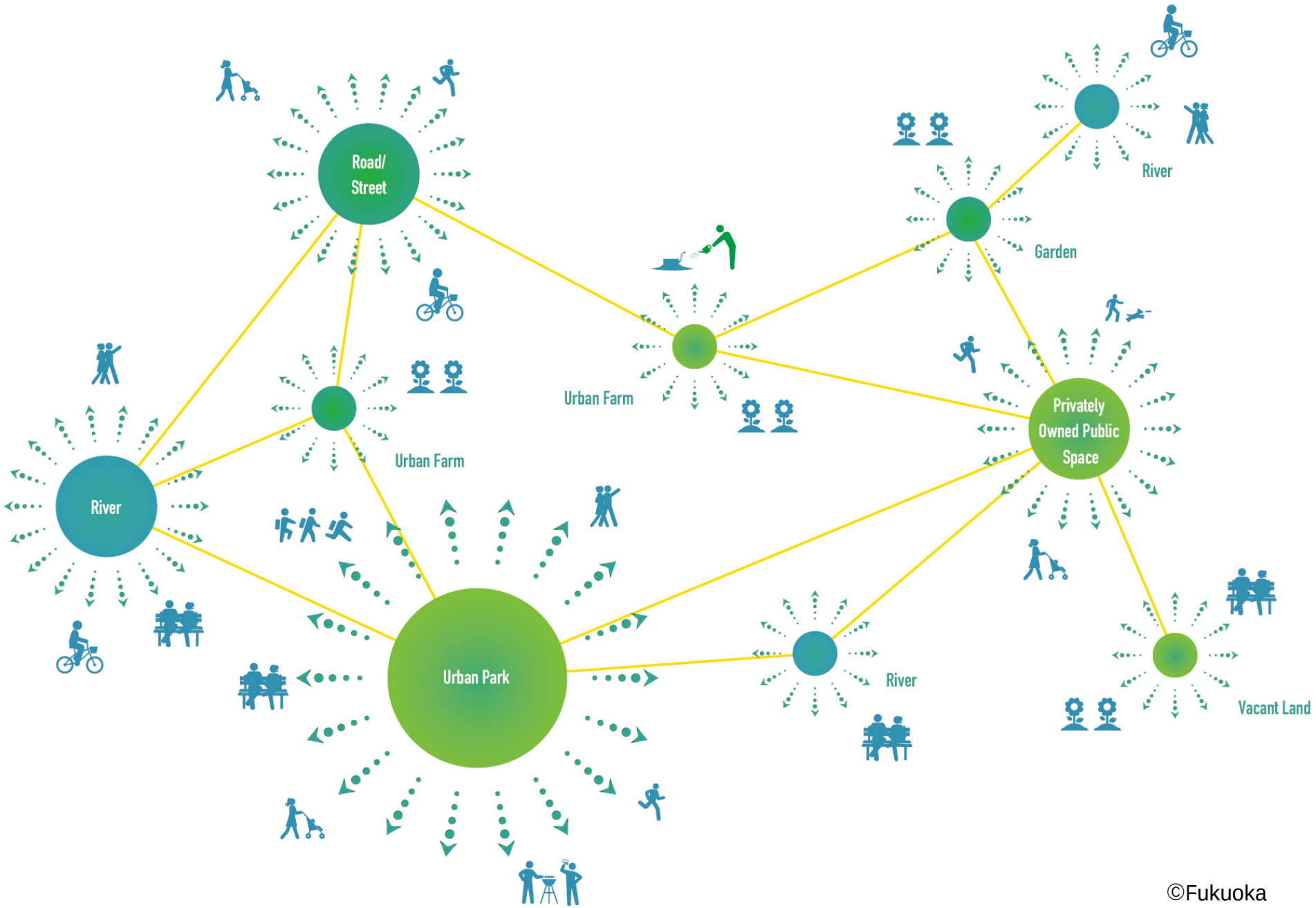
*ウォーカビリティとは単に良好な歩行環境を有しているということだけではなく、良好な地域コミュニティを形成し
身体的にも精神的にも健康なライフスタイルなどを可能とするような歩く
行為を促進する生活環境全般を含む概念。





© 東京農業大学大学院地域環境科学科造園学専攻　造園デザイン詳論成果品より

身近な健康・スポーツの場所のネットワークをつくる



©Fukuoka

#0 Issues: 日本におけるスポーツ施設の現状

#1 Vision: 健康・スポーツ都市のビジョン

#2 Design: オープンスペースをスポーツの場に

#3 Social: 健康・スポーツのつながりをつくる

Sports and Health for All

スポーツ・フォア・オール

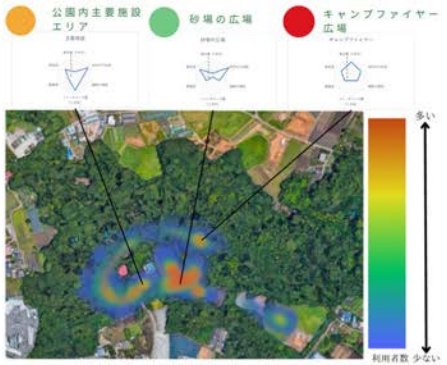
「人間はスポーツを行うことにより、人間が共同体を形成して営んでいくことに必要な社会性を、自ずと身につけることができる」

ーハンス・グロルー

「運動施設には、多様なバックグラウンドの人たちが同じ社会空間に集まって、競争や遊びや喜びをもたらす活動を通じて、他の場所では得られない人間関係を築くことを可能にする」

ーエリック・クリネンバーグー

健康・スポーツと社会関係資本



藤沢少年の森　利活用場所のヒートマップ

アンケートにおける回答

参加性	グループの活動に参加する頻度（毎回参加している%）	37.5%
社会的連携	コミュニティ内の人々は一般的に信頼できると思う(信用できる%)	62.5%
	コミュニティ内の人々他の人の役に立とうとすると思う（そう思う%）	73.8%
	このコミュニティにどの程度愛着がありますか？（愛着がある%）	26.5%
互酬性	病気の時に世話や看病をしてくれる人がいるか（いる%）	23.0%
	心配事や愚痴を聞いてくれる人がいるか（いない%）	15.4%
	心配事や愚痴を聞いてあげる人がいるか（いる%）	15.4%
繋がり	活動日以外で同コミュニティ内の友人に会う頻度(月に2回以上%)	17.8%
	同コミュニティ内の人物で仕事上や学校生活での重要な人物はいるか（いる%）	13.8%
	同コミュニティ内で過去６ヶ月以内に重要な相談をした人物がいるか（いる%）	12.5%

藤沢少年の森における社会関係資本のアンケート結果

小清水亮太　東京農業大学卒業研究2024：
湘南地域3公園における利活用と社会関係資本の形成に関する研究

(5)利活用の内容

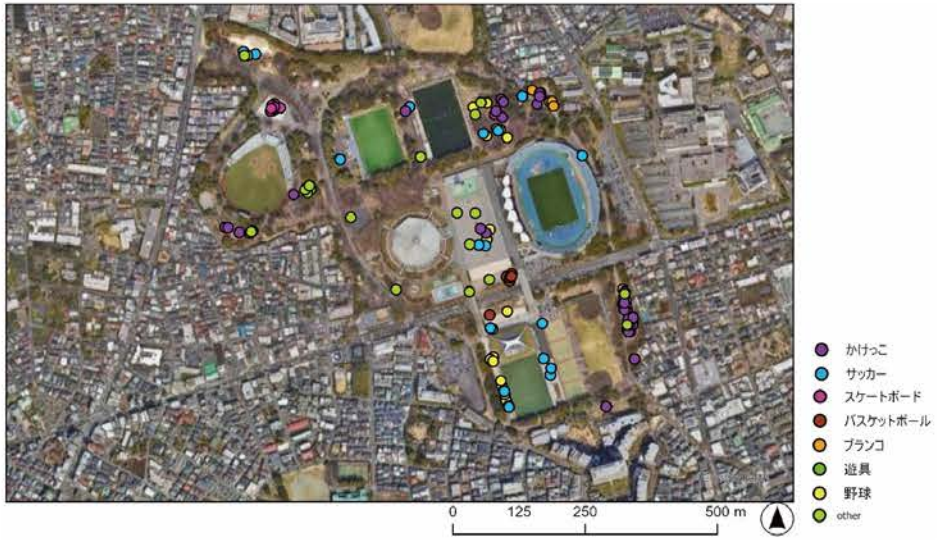


図 13 駒沢公園全体における利活用の内容分布図

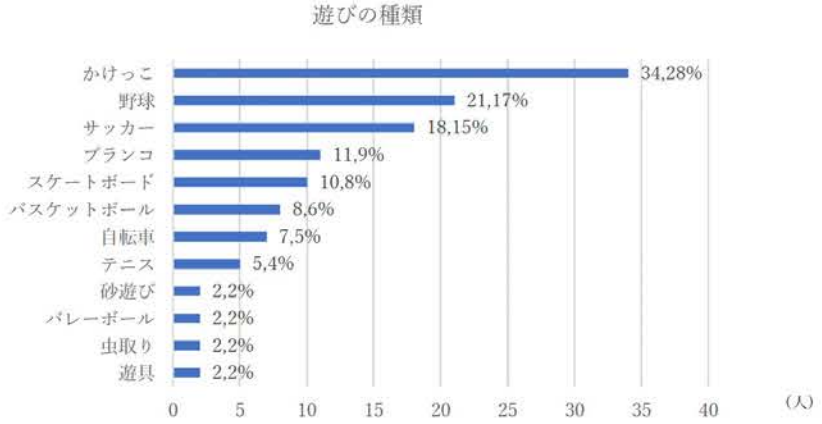


図 14 駒沢公園全体における利活用の内容グラフ

最所信吾　東京農業大学卒業研究2024:
世田谷区における子供の運動公園利活用調査

健康・スポーツの場の計画・設計・マネジメント

・Active participation, Testing, Activity-driven Design, Bridge to Park Management

観察する

プログラムの実験

議論

将来の利用者が企画運営に取り組んでみる

YR 2016

YR 2017

© 町田市・Fd Landscape

将来の利活用を計画設計に統合する

・すべての可能なアクティビティを場所に描き、計画設計段階に将来の利用者と議論する

利活用を設計段階で検討

■融合ゾーンの計画平面図

活動の視覚化

01　さわやか広場から融合ゾーンを見る

02　水道道路上方から賑わい広場を見る

■融合ゾーンのパース

03　新設緑道（南北自由通路）を見る

04　森の地形広場を見る

スケジュール

活動のイメージ

現在の公園

© 町田市・Fd Landscape

計画・設計段階でスポーツ・健康の場のマネジメント検討
→公園マネジメントの中での健康・スポーツプログラムの展開

第3回

健康づくり
のワークショップ

第一部：【デザイン提案】デザインレビュー
第二部：【意見交換】鶴間公園で健康になる
ゲスト講師：黒野 崇／株式会社BEACHTOWN

第3回"健康づくり"のワークショップ

日程
2016年9月10日（土曜日）/11日
場所
セミナープラス南町田／鶴間公園

参加人数

＜第一部＞ 26名
＜第二部＞雨天のため中止

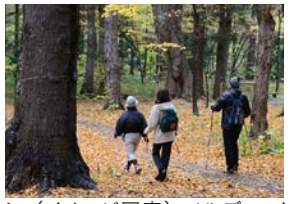
ゲスト講師
黒野 崇／株式会社BEACHTOWN 代表取締役
大学時代、ライフセイビング活動で人命救助の基礎、安全管理の重要性を学び、卒業後は病院に勤務。「なるべく病院に頼らない、薬に頼らない身体づくり」を提案する予防医学の現場に長く携わる。そこで得た経験と、サーフィンを通して知った「自然の中で身体を動かす心地よさ・楽しさ」の合致点を模索し、「アウトドアフィットネス」という新しい領域を考案。

WSの概要
公園のデザインレビューを実施し、様々なコメントをいただきました。

※黒野さんのレクチャーは、雨天により残念ながら中止となってしまいました。

＞デザインレビューの様子

＞デザインレビューの様子


＞（イメージ写真）ノルディックウォーキング

＞（イメージ写真）ノルディックウォーキング

＞グループワークの様子

＞(イメージ写真)パークヨガ

＞グループワークの成果

＞(イメージ写真)早朝公園ヨガ

誰もが健康・スポーツに取り組める!

- パークフィットネス（16+）
- ヨガ・ピラティス
- 運動教室（2+）
- バレエ・ダンス・体操
- 空手・太極拳
- チアダンス（小学生）
- フットボール、フットサル
- ラグビー
- テニス etc.

一般財団法人
みなみまちだを
みんなのまちへ

計画・設計段階

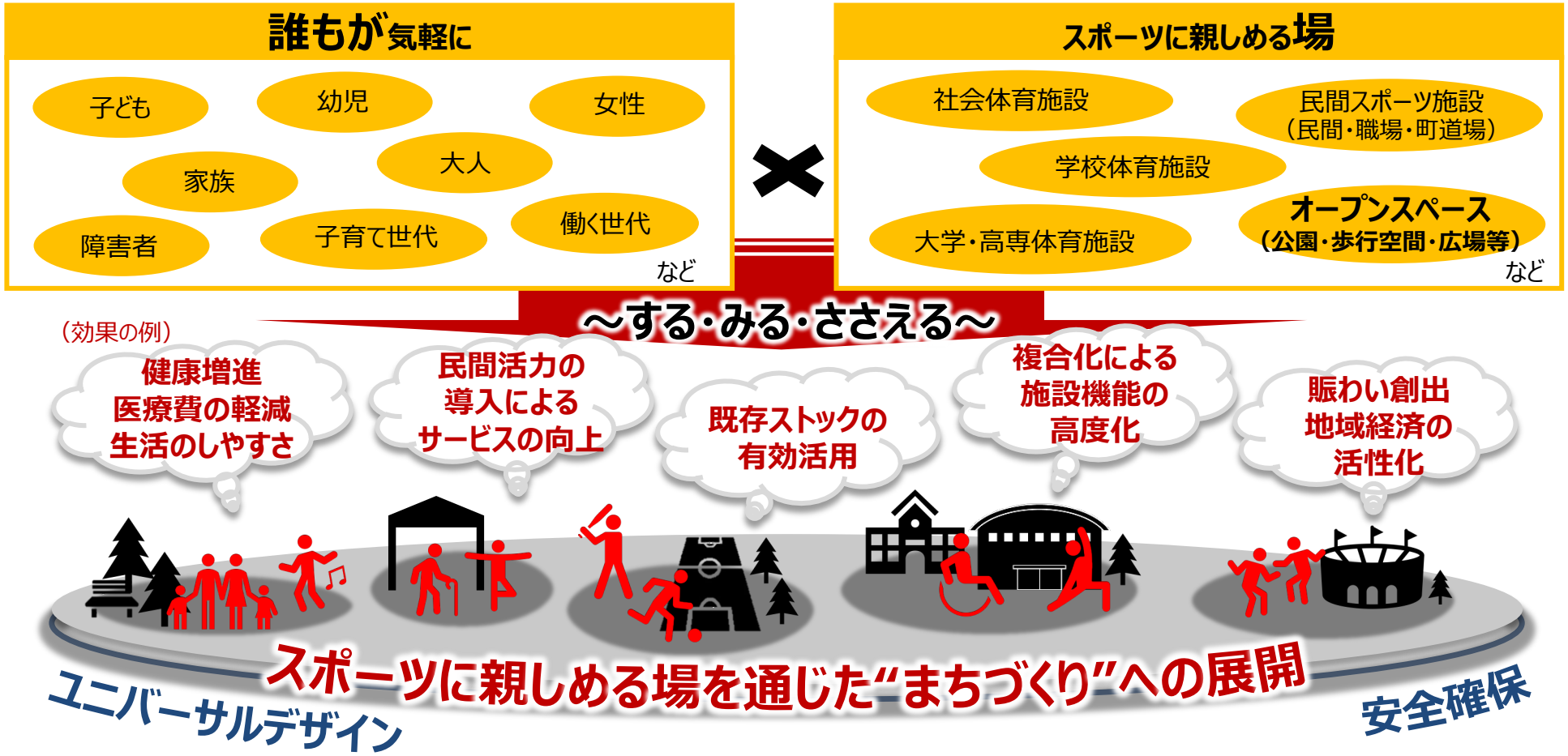
マネジメント段階

スポーツ庁　オープンスペースの活用等による誰もがアクセスできる場づくりの紹介

（２）本事業の趣旨について

第３期 スポーツ 基本計画

（10）スポーツの推進に不可欠な「ハード」「ソフト」「人材」
①地域において、住民の誰もが気軽にスポーツに親しめる「場づくり」の実現
（「量」的充実）
ウ　国は、スポーツはいわゆる「スポーツ施設」以外でも広くできるという発想の転換を地方公共団体等に促すとともに、**スポーツが気軽にできる場としての公園、広場、緑道等のオープンスペース、庁舎施設や商業施設等の空きスペース等の多様な空間の積極的な有効活用**、自然と歩きたくなるまちづくり、障害者も自然と出歩きたくなるまちづくりの推進等、**施設以外にもスポーツができる場を住民ニーズに応じて知恵と工夫により創出する**取組を先進事例の情報提供等により推進する。



出典：スポーツ庁（地域振興）の資料を転載

スポーツ庁　オープンスペースの活用等による誰もがアクセスできる場づくりの紹介

２．各オープンスペースのモデル実証の概要について

（１）対象地について

● 前述の課題の解決に向け、以下の３つの地域のオープンスペースにおいて、実証を行う。

公園

神奈川県川崎市
橘公園

神奈川県川崎市高津区子母口565

面積	約1.69ha
種別	近隣公園
所管管理	市直営管理（公園全域） 川崎市 高津区役所道路公園センター
土地利用	準住居地域（尻手黒川道路側） 第2種中高層住居専用地域（住宅側）
人口密度	14,323.2人／km² （県全体5番目・市全体3番目に高い）

歩行空間

三重県四日市市
中央通り

三重県四日市市諏訪町・三栄町

幅員・延長	約70m・約1.6km
種別	市道
管理	四日市市
土地利用	商業地域
人口密度	3,647.3／km² （R5.8.1現在、市内3番目に高い）

広場等

千葉県柏市
柏の葉ゲートスクエアプラザ

千葉県柏市若柴178－４

面積	約0.18ha
種別	民間敷地
管理	一般社団法人UDCKタウンマネジメント
土地利用	商業地域
人口密度	3,761.8／km² （R2.10.1現在、柏市全体）

出典：スポーツ庁（地域振興）の資料を転載

2-1-2．実証での取組内容

（2）具体的な取組について

取組内容（全体）

PLAY0 道具を使い、公園をフルに活用する

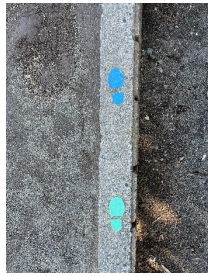
子ども同士・親子同士で楽しく遊べる環境を作り、自由な身体活動を実現

取組：①道具貸出実施（モルック・ミニらいとモルック、ボッチャ、バドミントンラケット・シャトルコック、ドッチボール2種類、ピックルボール,スコアボード、ネット）

PLAY1 遊びながら運動能力を伸ばす

子ども同士・親子同士で楽しく遊べる環境を作ります。

取組：①バランス取り、②異なる大きさの円



PLAY2 公園の中様々な運動を行う

アーバンスポーツを自由に楽しめるほか、自由な発想により遊びができる環境を作ります。

取組：①スラロームドット、②大きな四角、③健康器具活用、④垂直飛び

PLAY3 自然の中で体を動かす

寛ぎながら体を動かす環境を作ります。

取組：①スラックライン、②けんけんぱ

PLAY4 自分の生活リズムに合わせて体を動かす

公園外周経路やベンチ等の設えを活用し、気軽で簡単に運動できる環境を作ります。

取組：①ランニング、②ストレッチ

PLAY5 ボール遊びも運動も自由にできる

利用したいときに、自由に活用できる環境を作ります。

取組：①壁打ちネット、②25m目盛り

出典：スポーツ庁（地域振興）の資料を転載

スポーツ庁　オープンスペースの活用等による誰もがアクセスできる場づくりの紹介

４．オープンスペースの活用に向けた取組のプロセスについて

● モデル実証事業を踏まえ、オープンスペースを活用し、運動・スポーツに親しむ場づくりを進めていくための検討プロセスを、以下のとおり示す。

【検討プロセス】

	プロセス項目	内容
企画	**地域スポーツ実施に係る実態把握**	✓ エリア内において、気軽に運動・スポーツに親しめる場の実態の把握によるオープンスペースの活用意義 ✓ 地方公共団体、地域における運動・スポーツの実施状況（属性別） ✓ 既にオープンスペースの活用を進めている場合、その目的や計画との関連性の確認
企画	**オープンスペースの特徴の把握**	✓ 運動・スポーツに親しめる場づくりを進めるため、各オープンスペースの特徴の把握 ✓ 各オープンスペースにおける既存のアクティビティの把握
企画	**オープンスペースの活用に係る方向性の検討**	✓ 各オープンスペースにおいて、運動・スポーツの観点から、どんな身体活動を創出したいか等の検討・具体化 ✓ 各オープンスペースを活用することによって、どのようなまちづくりの効果を実現していきたいか等検討 ★検討・具体化にあたっては、地域の関係者やプレイヤーを巻き込んだ場を設置・活用することが望ましい
実施に向けた具体化	**空間のデザインの検討**	✓ 運動・スポーツに親しむ場を創出するため、どのような空間のデザインや活用方法の具体化 →ハード整備/簡易的な仕掛け（床面等デザインの工夫）/備品設置/道具の仕様　など
実施に向けた具体化	**管轄への許認可の実施**	✓ 公園（公園使用）、歩行空間（道路占用・使用許可）、広場等において、管理者への許認可の手続きの実施 →事前協議/計画作成/管理・運営における視点・協議の留意事項　など
実施	**ｵｰﾌﾟﾝｽﾍﾟｰｽの活用による運動・スポーツの実施**	✓ 各オープンスペースにおける実施に係る運営体制（主体・連携）や安全管理等の検討 ★スモールスタートで、適切な安全管理を行い、実証を進め、日常化していくことが望ましい ★スポーツ部署だけではなく、オープンスペースを所管する部署や健康・福祉等関連する部署との連携も必要に応じて重要
検証	**効果検証**	✓ 取組に係るプロセスの見える化（プロセス評価）：事業の目的や目標の達成に向けた過程（手順）や活動状況（アウトプット※）の評価 ※利用者アンケート調査/住民アンケート調査/アクティビティ等の目視観察/ICTの活用（GPS等）　など

出典：スポーツ庁（地域振興）の資料を転載

スタジアム・アリーナのスポーツ空間

大学キャンパス内の芝生

運動公園：一人でスポーツ・健康活動に取り組む場所

広場：水の遊び場、こどものための場づくり

湘南海岸沿いの公園を拠点にしたアウトドアフィットネス

アーバンスポーツの拠点、スケートパーク、湘南海岸

山の中、川沿い、自然に近いスポーツ・健康の場づくり　長野県白馬村

都市スケールのビジョンと敷地スケールの取り組みのギャップに橋をかけるには？

Active City
スポーツ・
健康都市の
ビジョン 、計画

Active Design
スポーツ・健康の
場づくり、デザイン
マネジメント

Vision　都市のビジョン
サステナブルな都市　健康な都市
スポーツ都市　みどりの都市

VISION

PLACE DESIGN
&
MANAGEMENT

Place 場所のデザインとマネジメント
プレイスメイキング　人をつなげる
スポーツコミュニティ　公園マネジメント

© Fukuoka

健康・スポーツ都市をつくるには？

#1都市の健康・スポーツ戦略は誰がつくるのか？

・ 健康・スポーツを都市の戦略へ（アクティブデザイン、健康的な都市、ウォーカブルシティ）

#2健康・スポーツのための場所をつくる

・特定の競技スポーツだけでなく、「Sports for All」～誰もが、健康・スポーツを楽しめる場所のデザインへ

・公園、道路、屋上、駐車場、学校、空地あらゆる

・公園課、スポーツ推進課、まちづくり課など領域横断で

#3スポーツ施設整備・管理から健康・スポーツの場所のデザイン、プレイスメイキングへ

・多世代の多様な健康・スポーツ利用を促すマネジメントとは？

・スポーツコミュニティ、グリーン x スポーツ

Thank You!

福岡孝則　tf206471@nodai.ac.jp

IAKS 日本
International Association for Sports and Leisure Facilities